

日本顕微鏡学会会報

2004
No.2

社団法人 日本顕微鏡学会

■2004年7月31日発行

■〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
(財)日本学会事務センター内

■TEL: 03-5814-5801 ■FAX: 03-5814-5820

■E-mail: jsm@bcasj.or.jp

■URL: <http://www.bcasj.or.jp/jsm/>

◇第60回学術講演会について

2005年(平成17年)学術講演会は、下記要領にて開催されます。募集要項等の詳細につきましては11月末発行予定の本誌39巻3号に綴込・掲載するとともに、ホームページにてご案内致します。皆様多数ご参加頂けますよう、心からお願い申し上げます。

会期: 2005年6月1日(水)~3日(金)

会場: つくば国際会議場, 筑波研究交流センター
(茨城県つくば市)

実行委員長: 松井良夫(物質・材料研究機構)

プログラム委員長(生物系): 高田邦昭(群馬大学・医)

プログラム委員長(材料系):

木本浩司(物質・材料研究機構)

問い合わせ先: 〒305-0044 茨城県つくば市並木1-1

物質・材料研究機構(並木地区) 松井良夫

TEL: 029-860-4401 又は 029-860-4700

FAX: 029-851-4976

E-mail: MATSUI.Yoshio@nims.go.jp

講演会ホームページ: <http://quasi.nims.go.jp/jsm05/>

◇名誉会員の推戴

平成16年度総会において平野 寛会員, 石川春律会員, 飯島澄男会員が名誉会員に推戴されました。

◇分科会・研究部会申請の案内

平成16年度は7件の分科会と5件の研究部会が設置されました。各分科会・部会については、29頁(黄緑色の頁)より掲載しました。ホームページを立ち上げている分科会・部会とは、学会のホームページとリンクを行なっています。分科会・研究部会によっては、ホームページのメーリングリストを立ち上げています。これにより、あるいはそのほかの手段により、研究会の案内、研究の情報交換等が行なわれています。会員の皆様の参加をお待ちしています。

◇分科会・研究部会申請の案内

平成17年度研究部会・分科会申請希望者は学会事務局へ書面にて9月末日までにご連絡下さい。

◇次期(平成17・18年度)役員候補者公募

本学会正会員は役員選出内規により正会員を次期役員候補者(理事または監事)として推薦することができます。推薦は正会員2名以上によることとなっています。詳しくは8月20日(金)までに学会事務局へお問い合わせ下さい。

◇顕微鏡新編集委員等の委嘱

新たに顕微鏡編集委員に以下の会員を委嘱することが決定しました(平成15年度第4回理事会)。

新編集委員長: 森博太郎 新副編集委員長: 菅沼龍夫

編集委員の新任: 千田隆夫, 螺良愛郎

編集委員の退任: 生物系: 小澤一史, 西野武志, 覚道健一

◇平成16年度支部長

北海道支部: 大貫惣明(北海道大学大学院工学研究科)

関東支部: 長船哲齊(日本体育大学)

関西支部: 鷹岡昭夫

(大阪大学超高压電子顕微鏡センター)

九州支部: 友清芳二(九州大学大学院総合理工学研究院)

◇電顕大学講義テキスト・8APEM(第60回学術講演会)

PROCEEDINGSの頒布

第14回電顕大学テキスト(5,000円)・8APEM PROCEEDINGS(3,000円)の頒布ご希望の方は下記へご連絡下さい。

申込先: 〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

(財)日本学会事務センター

TEL: 03-5814-5811

FAX: 03-5814-5822

E-mail: sub@bcasj.or.jp

◇8APEM (第60回学術講演会) 写真コンクール受賞者 —

1位 : Yasushi Kuroda, Toshie Yaguchi, Takeo Kamino,
Tsuyoshi Ohnishi : Hitachi Science Systems, Ltd.

Title : Micro Diamond ring

2位 : Shinsuke Miyazaki : FEI Company Japan, Ltd.

Harini Sosiati : Kyushu Univ.

Title : Reverie of birds~If you interpret color from mono-
chrome world, which believe it with the real thing

◇平成15年度会務報告および収支決算

1. 平成15年通常総会

平成15年6月7日、札幌コンベンションセンターにおいて、以下の議題について審議し、決議された。

- 1) 平成14年度事業報告の件
- 2) 平成14年度収支決算報告の件
- 3) 平成15年度事業計画の件
- 4) 平成15年度収支予算の件
- 5) 名誉会員推薦の件
- 6) 会費滞納者除名の件
- 7) 次期評議員選任の件
- 8) 次期役員選任の件

2. 役員

1) 平成15年度の会務は以下の役員によって行われた。

会長 : 外村 彰

副会長 : 澤田 元

常務理事 (庶務担当) : 大野伸一, 平山 司

(会計担当) : 石村和敬, 松井良夫

理事 : 大貫惣明, 脇田 稔, 岩槻正志, 高野吉郎,

寺内正己, 倉田博基, 高井義造, 永山国昭,

森田清三, 友清芳二

監事 : 井出千束, 矢崎和盛

3. 会員関係

1) 平成16年3月31日現在、会員状況は次のとおりである。

正会員数 : 2,019名 (海外会員23名, 永年会員30名, 学生50名含)

※支部別正会員数 : 北海道支部 57名
関東支部 1096名
関西支部 663名
九州支部 180名

賛助会員 : 69社 (130口)

名誉会員 : 29名 (海外6名含)

2) 会員異動

	入会数	退会数	除名 (会費滞納)
正会員	122名 (学生36名含)	98名 (学生2名含)	32名
賛助会員	2社	5社	—

3) 逝去会員

岡田祐二, 吉塚光明, 佐々木光雄, 藤本 和, John M.

Cowley の5会員が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

4. 事業

(1) 第13回電頭大学 (企画委員長 : 市野瀬英喜) は平成15年4月22日 (火) ~ 23日 (水) に東京大学山上会館 (東京都文京区) で行われた。参加者は63名であった。

(2) 第59回学術講演会 (実行委員長 : 高橋平七郎) は平成15年6月7日 (土) ~ 9日 (月) に札幌コンベンションセンターで行われた。演題等は537, 参加者は868名であった。

(3) 第14回電子顕微鏡サマースクール (実行委員長 : 大槻勝紀) は平成15年7月26日 (土) ~ 27日 (日) に大阪医科大学 (高槻市) で行われた。参加者は24名であった。

(4) 第48回シンポジウム (実行委員長 : 高野吉郎) は平成15年12月6日 (土) ~ 7日 (日) に東京医科歯科大学 (東京都文京区) で行われた。参加者は151名であった。

(5) 欧文誌 "Journal of Electron Microscopy" は第52巻2 ~ 6号および第53巻1号 (編集委員長 : 市野瀬英喜) を発行, 689頁であった。

(6) 和文誌「電子顕微鏡」は第38巻 : 2 ~ 3号および「顕微鏡」第39巻1号 (編集委員長 : 覚道健一) を発行, 243頁であった。

(7) 会報は3回・41頁 (和文誌へ綴じ込み) を発行した。

(8) 第59回学術講演会プログラム (56頁) を発行した。

(9) 第59回学術講演会発表要旨集 (290頁) を発行した。

(10) 第48回シンポジウムプログラム (15頁) を発行した。

(11) 第48回シンポジウム論文集 (176頁) を発行した。

(12) 日本顕微鏡学会学会賞 (瀬藤賞)

第48回委員会 (委員長 石川春律) は内規に基づき候補者推薦に関する協議を行った。第49回委員会 (委員長 下山 宏) は、候補者について審議し、理事会は平成16年度受賞者を決定した (受賞者は会報2004 No. 1, 4頁参照)。

(13) 論文賞

第18回委員会 (委員長 高柳邦夫) は内規に基づき候補論文推薦に関する協議を行った。第19回委員会 (委員長 市野瀬英喜) は、候補論文について審議し、理事会は平成16年度授賞論文を決定した (授賞論文は会報2004 No. 1, 4頁参照)。

(14) 技術功労賞

第8回委員会 (委員長 市野瀬英喜) は候補者推薦に関する協議を行った。第9回委員会 (委員長 佐藤 馨) は、候補者について審議し、理事会は平成16年度受賞者を決定した (受賞者は会報2004 No. 1, 4頁参照)。

(15) 奨励賞

第4回委員会 (委員長 田中信夫) は候補者推薦に関する協議を行った。第5回委員会 (委員長 木下智見) は、候補者について審議し、理事会は平成16年度受賞者を決定した (授賞者は会報2004 No. 1, 4頁参照)。

(16) 電子顕微鏡技術認定試験

電子顕微鏡技術認定委員会（認定委員長：山口正視）は本学会主催、日本臨床電子顕微鏡学会協賛で次の技術認定試験を行った。

第 26 回一般技術および第 25 回特殊技術認定試験

期 日：2003 年 10 月 11 日

会 場：慈恵医大、京大・医、産業医大

一般技術（生物） 特殊技術（生物）

受験者数： 47 名 6 名

認定登録者： 39 名 4 名

(17) 分科会・研究部会

下記の分科会・研究部会が承認され、活動した。

1) 分科会（6 件）…（ ）内は世話人

- ①ニューマイクロスコープ分科会 (長村義之)
- ②分析電子顕微鏡分科会 (進藤大輔)
- ③高分解能電子顕微鏡分科会 (高柳邦夫)
- ④走査電子顕微鏡分科会 (山田満彦)
- ⑤生体構造解析分科会 (光岡 薫)
- ⑥デバイス解析分科会 (桑野範之・平坂雅男)

2) 研究部会（6 件）…（ ）内は世話人

- ①アクティブナノ顕微鏡研究部会 (藤田大介)
- ②SPM による細胞の構造・物性の
インテグレーション研究部会 (竹安邦夫)
- ③生物・医学試料へのイオン顕微鏡の
応用研究部会 (高屋憲一)
- ④形態解析による抗微生物薬の作用機
序研究部会 (山田作夫)
- ⑤試料作製技術研究部会 (坂 公恭)
- ⑥電子顕微鏡による照射効果研究部会 (渡辺精一)

平成 15 年度収支決算

収支計算書

(平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)

収入の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
基本財産収入	5,000	3,998	1,002
基本財産利息収入	5,000	3,998	1,002
会費・入会金収入	26,600,000	25,842,700	757,300
正会員会費収入	18,530,000	17,920,700	609,300
賛助会員会費収入	8,000,000	7,860,000	140,000
入会金収入	70,000	62,000	8,000
事業収入	30,405,000	30,193,166	211,834
和文誌収入	3,300,000	3,795,500	△ 495,500
購読料収入	450,000	446,400	3,600
論文掲載・別刷代収入	150,000	697,418	△ 547,418
広告料収入	2,700,000	2,651,682	48,318
講演会等収入	26,445,000	25,539,666	905,334
学術講演会	21,800,000	20,086,493	1,713,507
シンポジウム	2,340,000	2,575,023	△ 235,023
サマースクール	905,000	810,000	95,000

電子顕微鏡大学	1,400,000	2,068,150	△ 668,150
技術認定収入	660,000	858,000	△ 198,000
補助金収入	7,100,000	7,135,992	△ 35,992
刊行補助金収入	7,100,000	7,100,000	0
科学研究費補助金	7,100,000	7,100,000	0
学術振興金収入	0	35,992	△ 35,992
雑収入	210,000	151,905	58,095
受取利息収入	10,000	10,783	△ 783
雑収入	200,000	141,122	58,878
積立預金取崩収入	1,200,000	1,200,000	0
学術振興積立預金取崩収入	1,200,000	1,200,000	0
当期収入合計	65,520,000	64,527,761	992,239
前期繰越収支差額	11,461,385	11,461,385	0
収入合計	76,981,385	75,989,146	992,239

支出の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
JEM 発行事業費	11,000,000	9,851,661	1,148,339
学会誌購入費	7,000,000	7,000,000	0
超過頁費用	700,000	126,000	574,000
編集費	1,200,000	1,109,341	90,659
編集委員会費	400,000	18,000	382,000
送料	1,700,000	1,598,320	101,680
和文誌発行事業費	6,900,000	7,249,102	△ 349,102
製作費	4,650,000	5,181,622	△ 531,622
編集費	850,000	788,492	61,508
編集委員会費	600,000	572,578	27,422
送料	800,000	706,410	93,590
会報発行事業費	600,000	634,725	△ 34,725
講演会等事業費	29,845,000	26,234,619	3,610,381
学術講演会	24,300,000	20,876,916	3,423,084*
シンポジウム	3,040,000	2,990,381	49,619
サマースクール	1,005,000	942,550	62,450
電子顕微鏡大学	1,500,000	1,424,772	75,228
技術認定事業費	900,000	1,058,294	△ 158,294
認定委員会費	450,000	556,895	△ 106,895
認定事業費	0	501,399	△ 501,399
支部活動・その他事業費	4,075,092	3,750,321	324,771
支部割当金	1,895,092	1,895,092	0
学会賞（瀬藤賞）選考費	660,000	285,498	374,502
論文賞選考費	90,000	181,556	△ 91,556
技術功労賞選考費	70,000	49,897	20,103
奨励賞選考費	70,000	50,158	19,842
分科会・研究部会補助金	1,200,000	1,200,000	0
国際連合負担金	90,000	88,120	1,880
管理費	12,900,000	12,797,210	102,790
会議費	600,000	398,072	201,928
旅費・交通費	1,450,000	1,274,100	175,900
通信費	600,000	595,716	4,284
印刷費	850,000	987,708	△ 137,708
雑費	900,000	969,249	△ 69,249
業務委託費	8,500,000	8,572,365	△ 72,365
特別事業費	60,000	30,000	30,000
金属工学研連補助金	30,000	0	30,000
解剖学研連補助金	30,000	30,000	0
積立金預金支出	2,460,000	3,131,092	△ 671,092

60周年記念事業費積立預金	400,000	400,000	0
国際会議関係預金	500,000	500,000	0
国際会議積立預金	500,000	500,000	0
名簿刊行事業積立預金	700,000	700,000	0
特定預金積立金	10,000	1,722	8,278
学術振興積立預金	0	679,370	△ 679,370
選挙管理費積立預金	350,000	350,000	0
租税公課	450,000	0	450,000
予備費	500,000	0	500,000
当期支出合計	69,690,092	64,737,024	4,953,068
当期収支差額	△ 4,170,092	△ 209,263	△ 3,960,829
次期繰越収支差額	7,291,293	11,252,122	△ 3,960,829

*：経費の節減による

正味財産増減計算書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位：円)

科 目	金 額
I. 増加の部	
1. 資産増加額	
60周年記念事業費積立預金	400,483
国際会議関係預金	500,000
国際会議積立預金	501,239
名簿刊行事業積立預金	700,000
選挙管理費積立預金	350,000
増加額合計	2,451,722
II. 減少の部	
2. 資産減少額	
学術振興積立預金	520,630
当期収支差額	209,263
減少額合計	729,893
当期正味財産増加額	1,721,829
前期繰越正味財産額	50,364,719
期末正味財産合計額	52,086,548

貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位：円)

1. 資産の部		
大 科 目	中 科 目	金 額
流動資産		
	現金	290,341
	預け金	10,558,408
	普通預金	1,462,156
	定期預金	2,000,000
	立替金	3,785,600
	仮払金	2,000,000
	前払金	1,134,345
	未収入金	861,998
流動資産合計		22,092,848
固定資産		
基本財産	貸付信託	10,000,000
その他の固定資産	定期預金	30,834,426
固定資産合計		40,834,426
資産合計		62,927,274

2. 負債の部

大 科 目	中 科 目	金 額
流動負債	未払金	9,278,620
	前受金	410,106
	前受会費	1,152,000
流動負債合計		10,840,726
負債合計		10,840,726

3. 正味財産の部

勘定科目	金 額
正味財産	52,086,548
(うち基本金)	10,000,000
(当期正味財産増加額)	1,721,829
負債及び正味財産合計	62,927,274

注 記 事 項

1. 重要な会計方針

資金の範囲について：

流動資産及び流動負債である。

2. 基本財産の増減額及びその残高は次のとおりである。

科 目	前期末残高	増加額	減少額	当期末残高
貸付信託	10,000,000	0	0	10,000,000

3. 次期繰越収支差額は次のとおりである。

	前期末残高	当期末残高
流 動 資 産	19,331,902	22,092,848
流 動 負 債	7,870,517	10,840,726
差 引	11,461,385	11,252,122

4. 正味財産の内訳は次のとおりである。

科 目	当期末残高
基本金	10,000,000
60周年記念事業費積立預金	2,003,185
国際会議関係預金	6,100,000
国際会議積立預金	4,609,475
名簿刊行事業積立預金	3,100,000
学術振興積立預金	14,321,766
選挙管理費積立預金	700,000
その他	11,252,122
正味財産合計	52,086,548

財 産 目 録

(平成16年3月31日現在)

I. 資産の部

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額
流動資産		
現金	和文誌編集委員会	290,341
預け金	日本学会事務センター	10,558,408
普通預金	中央三井信託銀行本店	1,087,137
〃	三菱信託銀行上野支店	375,019
定期預金	三井住友銀行上野支店	2,000,000
立替金	第60回学術講演会	2,500,000
〃	SAPEM 開催補助金	1,000,000
〃	第14回電子顕微鏡大学	100,000
流動資産合計		22,092,848

〃	IMC16	185,600
仮払金	8APEM	2,000,000
前払金	第60回学術講演会(案内印刷費)	16,725
〃	平成16年度工学会会費	40,300
〃	JEM発行事業費(編集費)	895,360
〃	技術認定事業費(電頭入門ガイドブック郵税他)	19,560
〃	2004年度会費請求書発送郵税	162,400
未収入金	和文誌39巻1号広告料収入	861,998
固定資産		40,834,426
基本財産		
貸付信託	中央三井信託銀行本店	10,000,000
その他の固定資産		
定期預金	みずほ銀行本郷支店	8,931,241
〃	三菱信託銀行上野支店	9,200,000
〃	東京三菱銀行春日町支店	10,000,000
〃	三井住友銀行上野支店	2,703,185

資産合計 62,927,274

II. 負債の部 (単位:円)

科目	摘要	金額
流動負債		10,840,726
未払金	和文誌発行事業費 製作費(39巻1号)	1,731,775
〃	和文誌発行事業費 送料(39巻1号)	236,080
〃	会報発行事業費(2003 No.1)	195,300
〃	JEM発行事業費編集費(学会誌購入費)	7,000,000
〃	JEM発行事業費編集費(案内印刷費)	8,715
〃	技術認定事業費(認定事業費)	97,650
〃	雑費(海外送金手数料)	9,100
前受金	学術振興金(研究部会戻入)	43,606
〃	電頭入門ガイドブック広告料	366,500
前受会費	平成16年度正会員会費	969,000
〃	平成16年度正会員(学生)会費	6,000
〃	平成16年度賛助会員会費	120,000
〃	平成17年度以降会費	57,000
負債合計		10,840,726
正味財産合計		52,086,548
負債及び正味財産合計		62,927,274

◇平成16年度事業計画および収支予算

1. 学術講演会, シンポジウム等の開催

1) 第14回電頭大学(企画委員長:市野瀬英喜)は平成16年4月19日(月)~20日(火)に東京工業大学(東京都目黒区)において開催。

2) 第60回学術講演会・8APEM(実行委員長・組織委員長:平井圭一)は平成16年6月7日(月)~11日(金)に石川県立音楽堂・金沢全日空ホテル(金沢市)において開催。

3) 第15回電子顕微鏡サマースクール(実行委員長:井上貴央)は平成16年7月30日(金)~31日(土)に鳥取大学医学部(米子市)において開催。

4) 第49回シンポジウム(実行委員長:田中信夫)は平成16年11月8日(月)~9日(火)にて名古屋大学において開催。

2. 学会誌, 会報等の発刊

1) 欧文誌“Journal of Electron Microscopy”(編集委員長:市野瀬英喜)は第53巻2号~6号, 54巻1号を刊行

2) 和文誌「顕微鏡」(編集委員長:森博太郎)は第39巻2号~3号, 40巻1号を刊行

3) 会報は和文誌へ綴じ込みにて年3回刊行予定

3. 事業

1) 賞の授与:平成16年6月9日(水)(於:第60回学術講演会・8APEM)第49回日本顕微鏡学会学会賞(瀬藤賞)・第19回論文賞・第9回技術功労賞・第5回奨励賞

2) 電子顕微鏡技術認定試験(認定委員長:山口正視)

平成16年10月16日に第27回二級(旧:一般技術)および第26回一級(旧:特殊技術)を東京, 大阪, 福岡の各地で実施予定

3) 分科会(7件)…()内は世話人

- ①ニューマイクロスコープ分科会 (長村義之)
- ②分析電子顕微鏡分科会 (倉田博基)
- ③高分解能電子顕微鏡分科会 (高柳邦夫)
- ④走査電子顕微鏡分科会 (山下美香)
- ⑤走査型プローブ顕微鏡分科会 (森田清三)
- ⑥生体構造解析分科会 (光岡 薫)
- ⑦デバイス解析分科会 (桑野範之・平坂雅男)

4) 研究部会(5件)…()内は世話人

- ①アクティブナノ顕微鏡研究部会 (藤田大介)
- ②SPMで生命現象を捉える手法の開発研究部会 (荒川秀雄)
- ③微生物の構造・機能の顕微科学的解析研究部会 (山田作夫)
- ④ビーム誘起・励起効果研究部会 (松村 晶)
- ⑤記録系と画像処理研究部会 (市野瀬英喜)

4. 委員会…()内は委員長

- (1) 欧文誌編集委員会(委員長 市野瀬英喜)
任期:平成16年12月末日まで
- (2) 和文誌編集委員会(委員長 森博太郎)
任期:平成18年3月末日まで
- (3) 技術認定委員会(委員長 山口正視)
任期:平成17年3月末日まで
- (4) 第49回日本顕微鏡学会学会賞(瀬藤賞)選考委員会(委員長 下山 宏) 任期:平成16年12月末日まで
- (5) 第19回論文賞選考委員会(委員長 市野瀬英喜)
任期:平成16年12月末日まで
- (6) 第9回技術功労賞選考委員会(委員長 佐藤 馨)
任期:平成16年12月末日まで
- (7) 第5回奨励賞選考委員会(委員長 木下智見)
任期:平成16年12月末日まで
- (8) 第60回学術講演会実行委員会(委員長 平井圭一)
任期:平成16年12月末日まで
- (9) 第61回学術講演会実行委員会(委員長 松井良夫)
任期:平成17年12月末日まで

- (10) 第49回シンポジウム実行委員会
(委員長 田中信夫) 任期：平成16年12月末日まで
- (11) 第15回電子顕微鏡サマースクール実行委員会
(委員長 井上貴央) 任期：平成16年12月末日まで
- (12) 第13・14回電子顕微鏡大学企画委員会
(委員長 市野瀬英喜)
任期：平成16年12月末日まで
- (13) 第8回アジア・太平洋電子顕微鏡学会議組織委員会
(委員長 平井圭一) 任期：平成16年12月末日まで
- (14) 第16回国際顕微鏡学会議組織委員会
(委員長 飯島澄男) 任期：平成18年12月末日まで
- (15) 学術運営委員会 (委員長 澤田 元)
任期：平成17年総会まで

平成16年度収支予算

収支予算書

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

収入の部 (単位：円)			
科 目	15年度予算額	16年度予算額	差 異
基本財産収入	5,000	5,000	0
基本財産利息収入	5,000	5,000	0
会費・入会金収入	26,600,000	28,380,000	1,780,000
正会員会費収入	18,530,000	18,730,000	200,000
賛助会員会費収入	8,000,000	9,500,000	1,500,000
入会金収入	70,000	150,000	80,000
事業収入	30,405,000	72,610,000	42,205,000
和文誌収入	3,300,000	3,650,000	350,000
購読料収入	450,000	450,000	0
論文掲載・別刷代収入	150,000	500,000	350,000
広告料収入	2,700,000	2,700,000	0
講演会等収入	26,445,000	67,740,000	41,295,000
学術講演会・8APEM	21,800,000	63,350,000	41,550,000
シンポジウム	2,340,000	2,340,000	0
サマースクール	905,000	650,000	△ 255,000
電子顕微鏡大学	1,400,000	1,400,000	0
技術認定収入	660,000	1,220,000	560,000
補助金収入	7,100,000	7,000,000	△ 100,000
刊行補助金収入	7,100,000	7,000,000	△ 100,000
科学研究費補助金	7,100,000	7,000,000	△ 100,000
学術振興金収入	0	0	0
雑収入	210,000	210,000	0
受取利息収入	10,000	10,000	0
雑収入	200,000	200,000	0
積立預金取崩収入	1,200,000	4,900,000	3,700,000
国際会議関係預金取崩収入	0	2,000,000	2,000,000
国際会議積立預金取崩収入	0	1,000,000	1,000,000
選挙管理費積立預金取崩収入	0	700,000	700,000
学術振興積立預金取崩収入	1,200,000	1,200,000	0
当期収入合計	65,520,000	113,105,000	47,585,000
前期繰越収支差額	11,461,385	11,252,122	△ 209,263
収入合計	76,981,385	124,357,122	47,375,737

支出の部 (単位：円)

科 目	15年度予算額	16年度予算額	差 異
JEM 発行事業費	11,000,000	11,000,000	0
学会誌購入費	7,000,000	7,000,000	0
超過頁費用・カラーページ費用	700,000	700,000	0
編集費	1,200,000	1,200,000	0
編集委員会費	400,000	400,000	0
送料	1,700,000	1,700,000	0
和文誌発行事業費	6,900,000	7,350,000	450,000
製作費	4,650,000	4,850,000	200,000
編集費	850,000	900,000	50,000
編集委員会費	600,000	800,000	200,000
送料	800,000	800,000	0
会報発行事業費	600,000	600,000	0
講演会等事業費	29,845,000	74,140,000	44,295,000
学術講演会・8APEM	24,300,000	68,850,000	44,550,000
シンポジウム	3,040,000	3,040,000	0
サマースクール	1,005,000	750,000	△ 255,000
電子顕微鏡大学	1,500,000	1,500,000	0
技術認定事業費	900,000	1,400,000	500,000
認定委員会費	450,000	550,000	100,000
認定事業費	450,000	350,000	△ 100,000
電頭入門ガイドブック出版補助費	0	500,000	500,000
支部活動・その他事業費	4,075,092	4,795,095	720,003
支部割当金	1,895,092	1,895,095	3
学会賞(瀬藤賞)選考費	660,000	460,000	△ 200,000
論文賞・和文誌賞選考費	90,000	150,000	60,000
技術功労賞選考費	70,000	50,000	△ 20,000
奨励賞選考費	70,000	50,000	△ 20,000
分科会・研究部会補助金	1,200,000	1,200,000	0
ホームページ更新・維持費	0	900,000	900,000
国際連合負担金	90,000	90,000	0
管理費	12,900,000	14,350,000	1,450,000
会議費	600,000	600,000	0
旅費・交通費	1,450,000	1,450,000	0
通信費	600,000	600,000	0
印刷費	850,000	850,000	0
選挙管理費	0	700,000	700,000
名誉会員楯作製費	0	1,000,000	1,000,000
雑費	900,000	650,000	△ 250,000
業務委託費	8,500,000	8,500,000	0
特別事業費	60,000	60,000	0
金属工学研連補助金	30,000	30,000	0
解剖学研連補助金	30,000	30,000	0
積立金預金支出	2,460,000	2,460,000	0
60周年記念事業費積立預金	400,000	400,000	0
国際会議関係預金	500,000	500,000	0
国際会議積立預金	500,000	500,000	0
名簿刊行事業積立預金	700,000	700,000	0
特定預金積立金	10,000	10,000	0
学術振興積立預金	0	0	0
選挙管理費積立預金	350,000	350,000	0
租税公課	450,000	450,000	0
雑損失	0	0	0
予備費	500,000	500,000	0
当期支出合計	69,690,092	117,105,095	47,415,003

当期収支差額	△ 4,170,092	△ 4,000,095	169,997
次期繰越収支差額	7,291,293	7,252,027	△ 39,266

合 計	311,935	290,963
-----	---------	---------

◇平成15年度支部活動と会計報告

《北海道支部》

I. 事業報告

1. 全国大会

平成 15 年 6 月 7 日 (土) ～ 9 日 (月), 札幌コンベンションセンター

2. 支部総会

平成 16 年 2 月 6 日 (土) 12:45 ～ 13:00, 北大歯学研究所講堂にて

3. 支部講演会

平成 16 年 2 月 6 日 (土) 9:40 ～ 18:05, 北大歯学研究所講堂にて

一般講演: 15 件

特別講演: 3 件

『電子線ホログラフィーによる位相計測と半導体内ドーパント分布解析』

平山 司 (財) ファインセラミックスセンター)

『加速器連結高分解能超高压電子顕微鏡の応用』

高橋平七郎 (北海道大学エネルギー先端研)

『糖輸送体の局在と動態を顕微鏡でみる』

高田邦昭 (群馬大学大学院医学系研究科)

4. 支部役員会

第一回役員会 平成 15 年 12 月末 (書面による審議)

第二回役員会 平成 16 年 1 月 9 日

第三回役員会 平成 16 年 2 月 7 日

5. 研究会, 講演会

HVEM 研究会

平成 16 年 3 月 18 日 (木) 13:30 ～ 16:50

北大学術交流会館第 3 会議室にて

II. 会計報告

(単位: 円)

収入の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
支部割当金	287,164	266,192
雑 入 金	0	0
前年度繰越金	24,771	24,771
合 計	311,935	290,963

支出の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
総会・学術講演会費	225,000	245,208
研究会・講演会費	60,000	20,000
会議費	3,000	1,873
交通費	15,000	5,000
通信費	8,000	4,250
雑費・予備費	935	724
次年度繰越金	0	13,908

《関東支部》

I. 事業報告

1. 平成 15 年度関東支部役員は下記のとおりであった。

支 部 長: 市野瀬英喜 (東京大学)

副支部長: 長船哲齊 (日本体育大学)

庶務幹事: 木本浩司 (物質材料研究機構)

会計幹事: 佐藤眞美子 (日本女子大学)

指名幹事: 小暮敏博 (東京大学)

江原友子 (東京医科大学)

監 事: 板東義雄 (物質材料研究機構)

高田邦昭 (群馬大学)

2. 日本顕微鏡学会関東支部第 28 回講演会及び平成 15 年度総会・評議員会を開催した。

日 時: 平成 16 年 3 月 13 日 (土) 9:25 ～ 17:50

場 所: 東京医科大学病院 6 階, 臨床講堂他

実行委員: 黒岩常祥 (実行委員長), 木本浩司 (副委員長), 他実行委員 12 名

講演会題目: 「バイオ・ナノテクノロジーとそれを支える顕微鏡技術」

依頼講演数: 共通・A・B・C セッションで 25 題

ポスター発表 16 件

3. 電子顕微鏡試料作製・観察実技講習会を実施した。

講習科目:

生物試料超薄切片法 (医・生物) 3 名

走査電子顕微鏡試料作製法 (医・生物) 1 名

フリーズレプリカ法 (医・生物) 1 名

細胞培養と電顕観察の基礎 (医・生物) 1 名

ラットの血管鋳型作製法 (医・生物) 2 名

断面高分解能観察用試料の作製と観察 (材料) 1 名

電顕免疫組織細胞化学 (医・生物) 2 名

クライオスタッド切片の作製とレーザー

マイクロダイセクションによる

遺伝子解析の基礎 (医・生物) 1 名

計 12 名

4. 幹事会・常任幹事会を開催した。

幹事会 (出席人数): 6 月 28 日 (19), 9 月 13 日 (26), 12 月 20 日 (23)

常任幹事会: 4 月 26 日, 6 月 28 日, 9 月 13 日, 12 月 20 日, 3 月 4 日

5. 第 1 回幹事会に先立ちミニ講演会を実施した。

片岡一則教授 (東大・工)

「バイオマテリアルの世界: ドラッグデリバリーなど」

6. 関東支部平成 16 年度役員を選出

第 3 回幹事会において, 長船哲齊副支部長を平成 16 年度支部長とすることを承認した。また選挙により進藤大輔幹事を平成 16 年度副支部長に選出した。

II. 会計報告

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	
繰越金	1,479,141	1,479,141	
支部割当金	800,000	757,355	
支部講演会	1,000,000	1,505,000	
支部実技講習会	900,000	600,000	
雑収入	5,000	20,007	
合 計	4,184,141	4,361,503	
支出の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	
通信費	320,000	145,920	
行事費	50,000	20,000	
会議費	150,000	91,978	
交通費	500,000	434,000	
印刷費	100,000	33,344	
事務委託費	300,000	250,877	
支部講演会	1,000,000	1,214,553	
支部実技講習会	750,000	470,000	
雑費	—	11,932	
予備費	50,000	0	
繰越充当金	964,141	1,688,899	
合 計	4,184,141	4,361,503	

《関西支部》

I. 事業報告

1. 支部総会

- 平成 15 年 7 月 12 日 (土) 12:45 ~ 13:30
- 京大会館 101 号室

2. 関西支部特別講演会

- 平成 15 年 7 月 12 日 (土) 13:45 ~ 17:00
- 京大会館 101 号室 (参加者：約 80 名)
- プログラム：

セッション I 座長：石村和敬 (徳島大医学部)

「電子顕微鏡で解析されたチャネルの構造と機能」

藤吉好則 (京都大学大学院・大学院理学研究科)

「超分子ナノマシン細菌べん毛の自己構築とスイッチ機構」

難波敬一 (大阪大生命機能研究科)

セッション II 座長：田中信夫 (名古屋大学理工総研)

「高分解能その場観察法および Z コントラスト法の材料科学における役割—アモルファス半導体の結晶化と時効析」

今野豊彦 (大阪府立大工学部)

「相変化型光ディスクの記録マーク観察」

神前 隆, 稲里幸子

((株) 松下テクノリサーチ分析技術グループ)

児島里恵, 山田 昇

(松下電器産業 (株) メディ制御システム開発センター)

3. 関西支部特別企画「生体物質可視化セミナー」

- 世話人：大槻勝紀 (大阪医大)
- 開催日時：平成 15 年 12 月 13 日 (土) 10:00 ~ 16:25

・場 所：大阪医科大学 第 I 臨床講堂

・参加人数：55 名

・プログラム：

I. 電顕でなにができるか？座長：大槻勝紀 (大阪医大)

「電子顕微鏡による水チャネル AQP4 の高分解能構造解析」 光岡 薫 (京都大低温物質科学研究センター)

「膜タンパク質と脂質分子の局在を急速凍結免疫電顕法でみる」 村手源英¹, 藤本 和^{1,2}

(¹CREST, 科学技術事業団, ²福井県立大)

「転写早期の mRNA をターゲットとした電顕レベルの in situ hybridization」

北澤荘平, 近藤武史, 北澤理子 (神戸大医)

II. ランチョンセミナー

「電子顕微鏡の新機能・新技術の紹介：BIO-TEM 高角度傾斜バージョン」 (日立ハイテクノロジーズ)

「蛍光タンパク質によるイメージングシステム」

(オリンパス光学工業)

III. Laser Scanning Cytometry (LSC) の基礎から応用

座長：沼 義博 (関西医大)

「LSC の測定原理」 中山和夫 (オリンパス光学工業)

「サイトメトリーの臨床応用：脳腫瘍の DNA ploidy」

沼 義博 (関西医大)

IV. 蛍光イメージングによる細胞機能の解析

座長：河田光博 (京都府立医大)

「蛍光イメージングを用いた神経栄養因子の一塩基多型の解析」 小島正己 (産業技術総合研究所)

「1 分子蛍光イメージングによる機能解析」

石井由晴 (CREST, 科学技術事業団)

「GFP によるステロイドホルモン受容体の可視化と動態解析」 河田光博 (京都府立医大)

4. 外国人講演会

(1) 日 時：2003 年 5 月 7 日 (水) 13:00 ~ 15:00

場 所：京都工芸繊維大学 8 号館 301 号室

講演者 (所属)：

Miran Ceh, Ph. D (Josef Stefan Institute, Slovenia)

講演題目：Atomic resolution HAADF STEM

imaging: applications in ceramics with perovskite structure

世話人：西城浩志 (京都工芸繊維大学)

(2) 日 時：2004 年 2 月 17 日 (火) 14:00 ~ 16:00

場 所：京都大学医学部保健学科会議室

講演者 (所属)：

H.R. Gelderblom, Ph. D (Robert Koch Institute, Germany)

講演題目：Diagnostic Electron Microscopy in bioterrorism (BT) and other infectious diseases emergencies.

世話人：後藤俊幸 (京都大・医・保健)

5. 役員会

1) 支部評議員会

日 時：平成 15 年 7 月 12 日 (土) 12:00 ~ 12:45

場 所：京大会館 101 号室

2) 幹事会

- 第1回：平成15年5月31日（土）14：00～16：00
 場 所：日本電子（株）大阪支店「会議室」
 平成14年度事業・決算報告，平成15年度事業計画・予算案，その他
- 第2回：平成15年7月12日 11：00～12：00
 場 所：京大会館215号室
 平成15年度評議員会・総会議事，その他
- 第3回：平成15年12月20日（土）14：00～16：00
 場 所：日本電子（株）大阪支店「会議室」
 平成16年度支部長・副支部長候補の選出，その他

6. 平成16年度支部長・副支部長選挙

支部長：鷹岡昭夫（大阪大学超高压電子顕微鏡センター）
 副支部長：大槻勝紀（大阪医大）

7. 監査 平成16年4月

II. 会計報告

(単位：円)

収入の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
本部からの補助金		
支部割当金収入	550,200	550,200
雑収入		10
受取利息	100	
当期収入合計	550,300	550,210
前期繰越金	1,125,859	1,125,859
収入合計	1,676,159	1,676,069
支出の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
支部事業費		
通 信 費	150,000	111,122
印 刷 費	60,000	32,000
事 務 費	60,000	42,311
会 場 費	50,000	29,505
会 議 費	50,000	38,115
総 会 費	50,000	49,350
交 通 費	370,000	189,280
外国人講演会費	80,000	40,000
技術研究会補助金	250,000	173,412
予備費	50,000	0
当期支出合計	1,170,000	705,095
次期繰越金	506,159	970,974

《九州支部》

I. 事業報告

1. 第45回支部総会ならびに支部評議員会の開催

日 時：平成15年11月29日
 場 所：宮崎大学（宮崎市）

2. 学術講演会の開催

日 時：平成15年11月29日

場 所：宮崎大学（宮崎郡清武町）

会 長：菅沼龍夫（宮崎大学医学部）

特別講演：

永山国昭（岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター）

大脇 真（科学技術振興機構さきがけ「生体と制御」）

一般講演：医学生物系 10件，物質材料系 15件

3. 支部主催セミナーの開催：なし

4. 第16回九州電子顕微鏡技術研究会（参加者60名）

日 時：平成15年8月30日

場 所：九州大学医学部（福岡市）

II. 会計報告

(単位：円)

収入の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
支部交付金	348,707	321,345
前年度繰越金	586,703	586,703
合 計	935,410	908,048
支出の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
支部総会助成	250,000	250,000
通信・郵送料	60,000	20,025
技術者研究会助成	20,000	20,000
印刷費・事務費	30,000	2,814
予 備 費	8,000	0
小 計	368,000	292,839
次年度繰越	567,410	616,209
合 計	935,410	909,048

◇平成16年度支部事業計画・予算

《北海道支部》

I. 事業計画

1. 支部総会，支部講演会等

支部講演会：平成17年2月12日（土）開催予定

第一回役員会：平成16年5月頃開催予定

第二回役員会：平成16年10月頃開催予定

第三回役員会：平成17年2月12日開催予定

2. 研究会及び講演会の募集

HVEM研究会 生物系研究会 SEM研究会等の開催

3. その他

全国大会2004年6月7日～11日，金沢，8th-APEM と共催

II. 予算

(単位：円)

収入の部	
科 目	予 算 額
支部割当金*	266,192

雑入金	0
前年度繰越金	13,908
合計	280,100

支出の部

科目	予算額
総会・学術講演会費	220,000
研究会・講演会費	40,000
会議費	2,000
交通費	12,000
通信費	5,000
雑費・予備費	1,100
次年度繰越金	0
合計	280,100

*：平成16年度支部割当金は、平成15年度と同額とした。

《関東支部》

I. 事業計画

- 平成16年度関東支部役員
支部長：長船哲齊（日体大）
- 関東支部第29回講演会・総会・評議員会の開催
- 幹事会・常任幹事会を開催
- 電子顕微鏡試料作製・観察実技および光学顕微鏡技法講習会の開催
- 関東支部平成17年度（2005年度）役員の選出
- 関東支部・評議員・幹事の選挙を行う
- 幹事会でのミニ講演会に代わって、各幹事やアドバイザーが所属する大学、会社での顕微鏡の利用状況などに関するミニ情報交換の場を新たに設ける

II. 予算

(単位：円)

収入の部

科目	予算
繰越金	1,688,899
支部割当金	762,985
支部講演会収入	1,300,000
実技講習会収入	900,000
雑収入	5,000
合計	4,656,884

支出の部

科目	予算
通信費	320,000
行事費	50,000
会議費	100,000
交通費	500,000
印刷費	100,000
事務委託費	300,000
支部講演会	1,300,000
支部実技講習会	750,000
予備費	50,000
繰り越し充当金	1,186,884

合計 4,656,884

《関西支部》

I. 事業計画

- 幹事会：年3回開催
第1回幹事会：平成16年5月8日（土）
第2回幹事会：平成16年7月17日（土）（大阪大学）
第3回幹事会：平成16年11月～12月
- 支部評議員会：平成16年7月17日（土）（大阪大学）
- 支部総会：平成16年7月17日（土）（大阪大学）
- 特別講演会：平成16年7月17日（土）（大阪大学）
- 外国人講演会の共催：2件程度
- 関西支部特別企画：10月～11月
世話人：（非生物系担当）
- 支部長・評議員選挙：平成17年3月予定

II. 予算

(単位：円)

収入の部

科目	予算
支部割当金	547,291
雑収入	10
当期収入合計	547,301
前年度繰越金	970,974
合計	1,518,275

支出の部

科目	予算
通信費	170,000
印刷費	60,000
事務費	60,000
会場費	50,000
会議費	50,000
総会費	50,000
交通費	350,000
外国人講演会費	80,000
支部特別企画補助金	250,000
予備費	50,000
当期支出合計	1,170,000
次年度繰越金	348,275
合計	1,518,275

《九州支部》

I. 事業計画

- 第46回支部総会ならびに支部評議員会の開催
日時：平成16年11月27日（土）
場所：熊本大学（熊本市）
- 学術講演会の開催
日時：平成16年11月27日（土）
場所：熊本大学（熊本市）
会長：西田 稔（熊本大学）

3. 第17回九州電子顕微鏡技術研究会

日 時：平成16年8月

場 所：九州大学医学部（福岡市）

II. 予算

(単位：円)

収入の部	
科 目	予 算
支部交付金	320,000
前年度繰越金	616,209
合 計	936,209
支出の部	
科 目	予 算
支部総会助成	250,000
通信・郵送料	60,000
技術者研究会助成	20,000
印刷費・事務費	15,000
予 備 費	5,000
小 計	350,000
次年度繰越	587,209
合 計	937,209

◇第48回シンポジウム決算報告

2003年12月6日～7日に東京医科歯科大学湯島キャンパスで開催した第49回シンポジウム（テーマ：材料化学と生命科学のクロストークー顕微解析の最前線ー）には151名の参加者がありました。収支決算は以下のとおりです。

【収入の部】		(単位：円)
項 目	内 訳	決 算
学会本部補助金		700,000
予稿集広告料	50,000/頁×12頁	600,000
商業展示料	80,000/ブース×1, 50,000/ブース×11, 30,000/ブース×1	660,000
冠シンポジウム	50,000×5	250,000
ランチョンセミナー	100,000×2	200,000
学会参加登録費	有料参加者合計131名	615,000
懇親会参加費	有料参加者合計44名	212,000
予稿集販売料	2,500×1	2,500
利 息		3
合 計		3,239,503
【支出の部】		(単位：円)
運営費	会場設営費・ランチョン弁当代 など	592,794
懇親会費		463,828
人件費		639,000
会議費	食事代	70,515
印刷費	プログラム・予稿集・ネーム カードなど	556,605
謝 金	非会員シンポジスト・特別講演 演者への謝礼	435,250

通信費		42,760
文房具代		69,934
その他	振込手数料・謝礼品	68,745
学会本部繰入金		300,072
合 計		3,239,503

学会参加人数

	事前料金	当日料金	合 計
会 員	29	61	90
臨時会員	13	19	32
学 生	3	6	9
小 計	45	86	131
非会員シンポジスト			18
名誉会員			2
合 計			151

懇親会参加人数

	事前料金	当日料金	合 計
会 員	13	20	33
臨時会員	5	2	7
当日懇親会のみ	0	4	4
小 計	18	26	44
招 待	19	11	30
合 計			74

分野別登録状況

生 物 系	37
非生物系	85
不 明	13

◇平成15年度第4回理事会議事要旨

日 時：平成16年3月5日（金）13:30～15:30

会 場：日立製作所本社ビル（東京都千代田区）

出席者：(理事) 外村 彰, 澤田 元, 大野伸一, 平山 司, 石村和敬, 松井良夫, 大貫惣明, 脇田 稔, 高野吉郎, 倉田博基, 高井義造, 永山国昭, (監事) 矢崎和盛

オブザーバー：平井圭一 (SAPEM 組織委員長), 古屋一夫 (IMC 組織委員), 覚道健一 (和文誌編集委員長), 市野瀬英喜 (欧文誌編集委員長・関東支部長), 丹司敬義 (広報委員長)

委任状出席：(理事) 岩槻正志, 寺内正己, 森田清三, 友清芳二, (監事) 井出千東

【報 告】

1. 庶務報告：第3回理事会以降の会務報告
2. 会計報告：2月16日現在の会計状況報告
3. 欧文誌編集委員会報告：市野瀬編集委員長より欧文誌編集進捗状況が報告された。JEMの電子化・国際化をより一層進めること、役員への会誌への投稿依頼、ならびにJST

シンポジウムについて報告があった。

4. 和文誌編集委員会報告：覚道編集委員長より和文誌編集進捗状況が報告された。39巻1号が3月末に出版予定であり、表紙デザイン、雑誌名、体裁を一新し、新たなスタートを切ることとなったこと、また、この号に褒章記事（飯島会員：文化功労賞、高柳会員：紫綬褒章）を掲載する旨等が説明された。

5. 会員増強委員会報告：澤田副会長から進捗状況報告が行われた。新たに賛助会員になった場合の出展・広告で会員割引を設けるかどうかについて議論が行われ、現状のままで、対応することとした。

6. 広報委員会報告：丹司委員長から①学術講演会広報方法、②科学館等との連携、③ホームページの充実、④入会案内等について、報告が行われた。

7. 8th APEM・第60回学術講演会準備状況報告

8. 第61回学術講演会準備状況報告

9. IMC 準備状況報告：学術会議への共催申請の件、ならびに準備状況について報告が行われた。

10. 金属関係学協会連絡委員会報告

①平成17年度科研費審査委員として適切な研究者について常務理事会で協議し、金属工学研連へ推薦したこと ②標記委員会が3月2日に開催され、同研連からの学術振興会への推薦者について決定したこと等が松井常務理事から報告があった。

{推薦依頼細目} 第1段審査：金属物性：1名、構造機能材料：1名

11. 解剖学研連に係る報告：大野常務理事から平成17年度科研費審査委員として適切な研究者として常務理事会で協議し、解剖学研連へ推薦した旨報告があった。

{推薦依頼細目} 第1段審査：ナノ材料：2名

12. ウラン使用の規制についての要望書の件：澤田副会長から「核燃料物質、特にウラン使用の規制についての再検討の要望書」を文部科学省原子力安全課長宛に会長名にて提出した旨、報告があった。

13. 学会運営に関するアンケート報告：外村会長から本年2月下旬に全会員に対して行なった学会運営に関するアンケート結果について報告が行われた。意見交換の後、これを今後の学会運営について反映させるよう検討を進めていくこととした。

【議 題】

1. 第48回シンポジウム決算の件：高野委員長から第48回シンポジウムの終了報告、ならびに決算について説明があり、承認された。

2. 和文誌編集委員会委員（長）交代の件：次期編集委員として、千田隆夫・螺良愛郎会員を委嘱することとした。また、次期編集委員長に森博太郎会員が、副編集委員長に菅沼龍夫会員が推薦され、承認された。

3. 平成16年度分科会・研究部会の件：澤田学術運営委員長より学術運営委員会での審議経過の説明があった。審議の

後、分科会・研究部会の平成16年度設置を承認した（17頁参照）。

4. ホームページに関する件：ホームページの改訂、ならびにそれに伴う経費の件について報告が行われ、承認された。

5. 平成16年度事業計画の件：承認（17,18頁参照）

6. 平成16年度収支予算の件：承認（18,19頁参照）

7. 名誉会員推薦の件：平野・石川元会長、飯島前会長を名誉会員へ推薦する旨、配布資料に基づき、説明があり、候補者の資格審査をし、これを適当と認め、評議員会・総会に付議することとした。

8. 平成16年度総会議案提出の件：大野常務理事より平成16年総会議案の常務理事会案が出され、承認した。報告・議題は以下の通り。また、SAPEMとの同時開催のため、例年、懇親会時に行われていた授与式は総会後に行い、受賞講演はその内容に近いセッションで行うことが確認された。

1. 学会賞（瀬藤賞）受賞者報告

2. 論文賞授賞報告

3. 技術功労賞受賞者報告

4. 奨励賞受賞者報告

5. IMC16報告

6. 平成15年度事業報告の件

7. 平成15年度収支決算報告の件

8. 監査報告

9. 平成15年度事業計画の件

10. 平成15年度収支予算の件

11. 名誉会員推薦の件

12. 会費滞納者除名の件

13. その他

9. 入会・退会の件：大野常務理事から2003年11月～2004年1月分の会員異動について報告が行われ、承認された。

	正会員	学生	賛助
入会	25	19	—
退会	23	—	—

10. 協賛等の件：7件の協賛・掲載等を了承した。

11. 支部に関する件：市野瀬関東支部長から現在の支部について、北海道・九州支部と関東・関西支部の人数・規模の差が大きく異なっており、これを北海道・東北、関東、関西、中国・九州といった区割変更について提案が行われ、検討していくこととした。

12. CAPSEMに関する件：①次回APEMについては立候補をしないこと、②President・Secretary-Treasurerについては本会からは推薦を見送ることとした。

◇平成15年度第5回理事会議事要旨

日 時：平成16年6月6日（日）16：30～19：30

会 場：金沢全日空ホテル

出席者：（理事）外村 彰、澤田 元、大野伸一、平山 司、石村和敬、松井良夫、大貫惣明（北海道支部長兼）、脇田 稔、岩槻正志、寺内正己、倉田

博基, 高井義造, 永山国昭, 森田清三, 友清芳二
(九州支部長兼), (監事) 矢崎和盛

オブザーバー: 森博太郎 (和文誌編集委員長), 市野瀬英
喜, (欧文誌編集委員長・関東支部長), 古屋一夫
(IMC 組織委員), 山口正視 (技術認定委員長),
丹司敬義 (広報委員長), 井上貴央 (サマース
クール実行委員長), 田中信夫 (シンポジウム実
行委員長), 鷹岡昭夫 (関西支部長)

委任状出席: (理事) 高野吉郎, (監事) 井出千東

【報告】

1. 庶務報告: 第4回理事会以降の会務報告
2. 欧文誌編集委員会報告: 編集進捗状況報告, 平成16年度科研費交付(700万円)内定を得たこと, 海外から新たな編集委員を招聘すべく検討を進めていること等の報告があった。
3. 和文誌編集委員会報告: 編集進捗状況報告
4. 技術認定委員会報告: 10月16日に行われる技術認定試験について報告があった。本年度から一級・二級に表示が変わり, それに基づき案内を行っていること, また7月に電頭入門ガイドブックが刊行予定であること, これをもとに受験者増を目指したいこと等が報告された。
5. 広報委員会報告【ホームページの件含む】: 丹司委員長から新入会案内を作成した旨報告があった。また, これを使い, 会員増強に役立ててほしい旨の協力依頼があった。続いてホームページのリニューアル, ならびにこれにともない, 新たに7月末から会員限定ページを設ける旨説明があった。更に千田会員に広報委員として活動してもらっている旨報告があった。
6. 会員増強委員会報告: 澤田副会長から個人会員・賛助会員増に向けての取り組みが報告された。賛助会員については15口の増が行われ, 今後更なる増のため, 澤田副会長を中心としたワーキンググループによる活動を行っていく旨報告があった。
7. 学術運営委員会・分科会・研究部会報告: 澤田委員長より各分科会・研究部会の平成15年度事業・会計について報告が行われた。また, 理事会前に行われた学術運営委員会・分科会・研究部会責任者合同会議について報告が行われた。
8. 各支部報告: 平成15年度事業・決算及び16年度事業計画・予算報告(19~23頁参照)
9. 第14回電子顕微鏡大学報告: 市野瀬委員長より東京工業大学で行なわれた本年度電頭大学について, 100名近い参加があり, 盛会裏に終了した旨報告があった。また, これまでに発行した電頭大学質問回答集をまとめ, 冊子にし, 発行する計画である旨報告があった。
10. 第15回サマースクール準備状況報告: 井上実行委員長より7月30~31日に鳥取大学で行なわれる本年度サマースクールについて準備状況が報告された。
11. 第49回シンポジウム準備状況報告: 田中実行委員長よ

り11月8~9日に名古屋大学で行われるシンポジウムについて準備状況の報告が行われた。

12. 第61回学術講演会準備状況報告: 松井実行委員長より平成16年6月1~3日につくば国際会議場・筑波研究交流センターで行われる標記大会・講演会について準備状況の報告が行われた。

13. IMC16準備状況報告: 古屋組織委員から標記大会の準備状況について報告があった。同会議が日本学術会議との共同主催国際会議候補と決定したこと, IFSMとIMC16のアウトラインについて調印が行われること等が説明された。

14. 科研費審査委員候補者推薦に関する報告: 松井常務理事から前回理事会以降, 新たに解剖学研連から推薦依頼があり, 常務理事会で検討の結果, 推薦を行った旨報告があった。

平成17年度科研費審査委員として適切な研究者として情報 {解剖学研連への推薦}

{推薦依頼細目}

第2段審査: ナノ・マイクロ科学1名

第1段審査: マイクロ・ナノデバイス8名

15. 金属連合協議会報告

16. 日本臨床顕微鏡学会報告: 日本臨床電子顕微鏡学会平成16年度大会について報告が行われた。

【議題】

1. 平成15年度事業報告の件: 平山常務理事より説明が行われ, 承認の後, 総会に諮ることとした。
2. 平成15年度収支決算報告の件: 石村常務理事より説明が行われ, 承認の後, 総会に諮ることとした。
3. 監査報告: 矢崎監事より4月23日に行われた監査結果について法令及び定款に照らして正当である旨の報告が行われた。
4. 平成16年度事業計画の件: 平山常務理事より説明が行われ, 承認の後, 総会に諮ることとした。
5. 平成16年度収支予算の件: 松井常務理事より説明が行われ, 承認の後, 総会に諮ることとした。
6. 会費滞納者除名の件: 大野常務理事より2年以上会費を滞納している会員へ会費納入を働きかけ, 8月末日までに納入無き会員に対しては定款第14条に基づいて除名する旨の提案がされ, 承認し, 総会に諮ることとした。
7. 総会・評議員会運営の件
 - ①運営について: 総会進行案が提出され, 了承された。
 - ②学会改革説明: 平山常務理事から学会改革活動の概要を総会において報告し, 広く会員へ呼びかけていきたい旨説明があった。また, 今後, 他国の顕微鏡関連の学会の動向を探りつつ, 学会活動の活性化, 財政状況の改善, 会員数の維持・増加をはかっていきたい旨, 報告があった。
8. 支部の件: 大野常務理事から支部間の会員数のバランス等から, 支部のあり方について検討してはどうかとの常務理事会提案があった。討議の結果, 了承され, 支部区割検討委員会を立ち上げ, 平成16年12月までに素案を作成し, 理事

会へ提出することとした。委員には以下の会員へ依頼することとした。また、同委員会の検討課題として、数の問題だけでなく、支部が持っている多様性や支部の存在意義（支部の活動、役割、方向性）を議論していくこととした。

委員：脇田、市野瀬、大野*¹、寺内、高井、石村、友清、（九州の生物系会員）*²

（*¹；主査（とりまとめ）、*²；九州支部長より後日、推薦）。

9. 評議員・役員選挙の件：大野常務理事から標記の件について、①各支部からの役員・評議員候補者の提出締め切りを8月末とすること等のスケジュール案、ならびに②各支部推薦数案等が提出され、了承された。「平成13年度以降の役員選出についての理事会申し合わせ」についてはそのまま今回の選挙でも適用することとした。

「平成17・18年度役員・評議員候補者推薦割当数」

	北海道	関東	関西	九州	理事会
理事：	1	6	5	1	2
監事：	—	1	1	—	—
評議員：	14	113	72	26	15
役員候補者：	1	1	1	1	10+1 ^(※)
推薦委員					

会長候補：各支部・理事会から：複数の会長候補者推薦にあたり、候補者は生物系あるいは非生物系というそれぞれの分野から交互に選ばれることが望ましい。

※：10名（理事互選）、1名（前会長）

10. 入退会の件：2004年2～4月分の会員異動について報告が行われ、承認された。

	正会員	学生	賛助
入会	39	5	7
退会	77	20	1

11. 協賛等の件：17件の協賛・掲載等を了承した。なお、「日本学術会議解剖学研究連絡委員会：第20回形態科学シンポジウム」については研連への補助金についての申し合わせにより30,000円を拠出することとした。

12. ウランの規制について：澤田副会長から核燃料物質の規制を強化する法案が当局で検討中であることから、生物系関連の学会（解剖学会・病理学会・臨床電子顕微鏡学会・顕微鏡学会）で8月までにウランの使用に関するマニュアルを作成し、規制を緩めてもらうよう文部科学省へ働きかけていきたい旨報告があった。なお、年間使用量を現在の300グラムまでから80グラムまで下げたマニュアル案を日本顕微鏡学会が中心に作成・検討中である旨報告があった。

13. John M. Cowley 名誉会員の追悼記事について：John M. Cowley 名誉会員逝去に際し、JEM誌に追悼記事を出すこととした。また、同名誉会員に関する特集についても編集委員会内で検討していくこととした。

◇平成16年通常総会議事要旨

日時：平成16年6月9日 12：30～13：30

場所：金沢全日空ホテル（金沢市）

定足数：117名（役員および評議員総数233名の1/2）

出席者：163名（うち書面による出席者91名）

第1号議案 平成15年度事業報告の件：承認

第2号議案 平成15年度収支決算報告の件：承認

第3号議案 平成16年度事業計画の件：承認

第4号議案 平成16年度収支予算の件：承認

第5号議案 名誉会員推薦の件：大野常務理事より定款9条に基づき、飯島澄男会員、石川春律会員、平野寛会員を名誉会員へ推薦する旨の説明がされ、承認された。

第6号議案 会費滞納者除名の件：大野常務理事より平成14年度から会費を滞納している会員を定款14条に基づいて除名する旨の説明を行い、承認された。除名は平成16年9月1日をもって行うこととした。

◇関係学協会の案内

1) 第44回真空夏季大学

期日：2003年8月25日（水）～28日（土）

会場：南熱海パストラル松風苑（静岡県熱海市）

問い合わせ先：日本真空協会

TEL: 03-3431-4395

2) 第45回真空に関する連合講演会

期日：2003年10月27日（水）～29日（金）

会場：大阪大学コンベンションセンター（吹田市）

問い合わせ先：日本真空協会

TEL: 03-3431-4395

3) 第20回形態科学シンポジウム「神経系におけるシグナルトランスダクション—高次機能発現から細胞死まで—」

主催：日本学術会議解剖学研究連絡委員会

期日：2004年8月26日（木）

会場：京都国際会議場

問い合わせ先：大阪大学大学院医学系研究科
内山安男

TEL: 06-6879-3120

E-mail: uchiyama@anat1.med.osaka-u.ac.jp

4) 第13回日本バイオイメーjing学会学術集会

主催：日本バイオイメーjing学会

期日：2004年11月5日（金）～7日（日）

公開シンポジウム：11月5日

学術集会：11月6日～7日

会場：京都府立医科大学

問い合わせ先：第13回日本バイオイメーjing学会

大会総務・小山田

TEL: 075-251-5322

E-mail: bioimage@koto.kpu-m.ac.jp

ホームページ：http://www2.kpu-m.ac.jp/~pcr/

5) International Symposium on Surface Science and Nanotechnology (ISSS-4)

(表面科学とナノテクノロジーに関する国際シンポジウム)

主催：日本表面科学会

期日：2005年11月14日(月)～17日(木)

会場：大宮ソニックシティ(さいたま市)

ホームページ：<http://www.sssj.org/iss4>

6) 第24回表面科学講演大会

期日：2004年11月8日(月)～10日(水)

会場：早稲田大学総合学術情報センター(国際会議場)

問い合わせ先：日本表面科学会

TEL: 03-3812-0266

E-mail: shomu@sssj.org

ホームページ：<http://www.sssj.org>

7) 第25回表面科学セミナー

期日：2004年10月7日(木)～8日(金)

会場：東京理科大学森戸記念館

問い合わせ先(申込先)：日本表面科学会

FAX: 03-3812-2897

E-mail: shomu@sssj.org

8) 第33回薄膜・表面物理基礎講座

「これでわかる!ダイヤモンド薄膜の基礎と応用」

期日：2004年11月11日(木)～12日(金)

会場：青山学院大学青山キャンパス

問い合わせ先(申込先)：

応用物理学会 分科会担当 伊羽

TEL: 03-3238-1043

E-mail: divisions@jsap.or.jp

9) VACUUM2004—真空展

期日：2004年9月15日(水)～17日(金)

会場：東京ビッグサイト[有明・東京国際展示場]

問い合わせ先：(株)シー・エヌ・ティ

TEL: 03-5297-8855

10) 日本セラミックス協会第17回秋季シンポジウム

期日：2004年9月17日(金)～19日(日)

会場：北陸先端科学技術大学院大学(石川県能美郡)

問い合わせ先：日本セラミックス協会

TEL: 03-3362-5232

E-mail: meeting@cersj.org

<http://www.ceramic.or.jp/ig-nenka/sympo/index.html>

11) 有機バイオ SPM 研究会・2004

—ダイナミックな SPM (手法, 観察)—

主催：応物学会有機分子・バイオエレクトロニクス分科会

日時：2004年11月26日(金)～27日(土)

場所：生命の森リゾート(千葉県)

<http://www.seimei-no-mori.com/map.html>

本研究会の目的：細いプローブでナノ領域に直接アクセスすることができる走査型プローブ顕微鏡(SPM)は、ナノテクノロジーを実現し確かめるための最も直接的な手法です。

本研究会は、SPMを使用した有機・バイオ系材料の研究に関心を持たれている研究者を対象として1999年より開催してきました。

今年度は、「ダイナミックな SPM (手法, 観察)」をテーマとして、本分野の第一人者である山田先生(京大)と菅原先生(阪大)に SPM の基礎と応用を講義していただき、続いて国内の SPM 研究者の方に最新の研究成果や測定テクニックなどの講演をしていただきます。

講演者：山田啓文(京大)、菅原康弘(阪大)、岡嶋孝治(北大)、田中敬二(九大)、酒井康博(東大)、影島賢巳(阪大)、星 治(新潟大)、関口博史(食総研)

参加費：M&BE 分科会個人会員 15,000 円、応物会員・協賛会員 20,000 円、一般 30,000 円、M&BE 分科会個人会員(学生) 5,000 円、応物会員・協賛会員(学生) 10,000 円、一般(学生) 15,000 円、

懇親会参加費：1,000 円(参加費と懇親会費は同時に振り込んで下さい)

参加費支払方法：E-mail, Fax にて、タイトルを「有機バイオ SPM 研究会参加申込」で、

- (1) 参加者名
- (2) 所属先・住所・Tel・Fax・E-mail
- (3) 会員番号(仮会員番号可)
- (4) 参加費種別・振込額・振込予定日
- (5) 懇親会参加の有無
- (6) 参加証送付先住所(宛名用)

を明記の上、下記までお申込下さい。

入金確認後参加証をお送りいたします。

詳細は以下ホームページを参照下さい。

<http://annex.jsap.or.jp/support/division/MandBE/sym/index.html>

参加締め切り：2004年10月29日(金)

問い合わせ先：古川一暁(NTT)

TEL: 046-240-3551

FAX: 046-270-2364

E-mail: furukawa@nttbl.jp

◇研究奨励金公募のご案内

本年度も風戸研究奨励会より下記のように奨励金公募の通知がきております。交付ご希望の方は同財団宛に申し込み用紙をご請求下さい。

1) 平成16年度風戸研究奨励金及び風戸奨励賞

電子顕微鏡並びに関連装置の研究・開発及び電子顕微鏡並びに関連装置を用いた研究(医学、生物学、材料学、その他)に携わっている研究者を対象

I. 風戸研究奨励金(研究助成費)総額4,000,000円

- ・応募資格：原則として満40歳以下の研究者
- ・交付金額および件数：選考委員会の選考結果による(1件100万円以内で約4名に贈呈予定)
- ・応募締切：2004年12月末日(当日消印有効)

- ・選考結果：2005年2月中旬に各応募者に連絡予定
(奨励金の送付は2005年3月上旬予定)
- ・申込用紙：風戸研究奨励金申込書を下記連絡先へ請求

II. 必要書類（書留にて送付のこと）

- ①風戸研究奨励金申込書
- ②最近の主な論文3編の別刷各9部，但し，うち8部はコピーで可（写真はオリジナルと同等のものを提出）
- ③推薦状1通
- ④履歴書1通
- ⑤業績リストと主要な業績の説明1通

III. 本奨励金による研究発表論文中には acknowledgment を明記。奨励金受給者は所定の時期までに研究成果及び研究経費の会計報告を行う。

「風戸奨励賞」風戸研究奨励金受賞者の中で，優れた業績に値すると認められ，さらに今後の研究成果が期待できると評価された研究者に授与する。

連絡先：〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2
日本電子株式会社内 財団法人風戸研究奨励会
事務局 高橋正行
TEL: 042-542-2106 FAX: 042-546-3353

◇平成16年度分科会活動方針・活動内容

1. ニューマイクروسコープ分科会（世話人：長村義之）

1) 分科会活動方針

医科学分野において“生命現象をありのままに捉える”ことを命題とし細胞のダイナミズムを中心にホルモンをはじめとする生体調節因子・遺伝子の発現調節・発生から分泌にいたる細胞内での動態とその異常を電子顕微鏡を基盤として共焦点顕微鏡などの新しい観察方法を積極的に活用，総合的な解析を試みる。

2) 平成16年度活動内容

①第8回アジア太平洋電子顕微鏡学会（8APEM）のシンポジウムとして参加

プログラム

B-2) Three-dimensional Structure of Biological Materials (7 June, 2004)

Organized by: Lucie Kubinova and Johbu Itoh

Room F 13:30 – 14:50

Chair; Lucie Kubinova and Johbu Itoh

13:30 (Invited) Breakthrough! of immuno-fluorescence antibody method. The observation of fluorescence microscopy (FM), confocal laser scanning microscopy (CLSM), and immunoelectronmicroscopy (EM) by the quantum dots probes.

Johbu Itoh¹, Yoshiko Itoh², Tomoo Tanaka¹, Manami Tanaka², Yoshiyuki Robert Osamura¹

¹Tokai University School of Medicine, ²National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (16001)

13:50 (Invited) CARS, SHG and multiphoton microscopy for three-dimensional bio-imaging. Satoshi Kawata Department of Applied Physics, Osaka University (16002)

14:10 (Invited) In Situ Ca²⁺ imaging of the heart.

Tetsuro Takamatsu

Kyoto Prefectural University of Medicine (16003)

14:30 (Invited) Three-dimensional analysis of biological structures using confocal and two-photon microscopy.

Lucie Kubinova, Jiri Janacek, Barbora Radochova,

Francesco Difato, Petr Karen

Department of Biomathematics, Institute of Physiology ASCR (16004)

②講演会の開催 未定（本年度後半に予定）

昨年度開催し、好評を博した「ナノクリスタルのバイオイメージングへの応用」のシンポジウムに、さらに最近の新しい知見を盛り込んだシンポジウムを開催予定

仮題：新しい観察ツール ナノクリスタルの医科学分野への応用II

3) 分科会問い合わせ先・連絡先：

〒259-1193 神奈川県伊勢原市望星台

東海大学医学部教育・研究支援センター細胞科学部門

伊東丈夫

TEL: 0463-93-1121 内線 2581 FAX: 0463-91-1370

E-mail: itohj@is.icc.u-tokai.ac.jp

2. 分析電子顕微鏡分科会（世話人：倉田博基）

1) 分科会活動方針

本分科会が開催する「分析電子顕微鏡討論会」を活動中心にしている。分析電顕に関する基礎、応用、周辺技術について最新の情報を含めて紹介するとともに、多くの研究者や技術者の意見交換も活発にはかれるように取り組んでいる。また、参加者の意見や要望に応える形で進めており、分析電顕技術の啓発に努めている。

2) 平成16年度活動内容

第20回分析電子顕微鏡討論会

開催日：平成16年8月31日（火）、9月1日（水）

場 所：幕張メッセ

内 容：EDS と EELS に関する基礎や分析技法の最前線を紹介するとともに、先端材料への新展開、試料作製のノウハウ、海外の研究事情のセッションも設けます。また20周年を記念した企画として、討論会のこれまでの歩みと今後、さらには電子顕微鏡研究の歩みについて特別講演が催されます。一般講演も行います。下記の要領にて開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

（代表責任者：京都大・化研 倉田博基）

URL: <http://eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp/bunseki20/>

— 20周年特別企画 — 基礎から最先端技法まで

期 日：平成16年8月31日（火）、9月1日（水）

会 場：幕張メッセ

（分析機器工業会主催の分析展と同時に開催）

参加費（予稿集含む）：会員及び協賛学会員 6,000 円、学生 3,500 円、非会員 7,000 円

内 容：EDS と EELS に関する基礎（チュートリアル）と分析技法の最前線（EPMA, HAADF, ホログラフィー、デバイス分析）を紹介するとともに、先端材料への新展開（ゴムメタル、半導体ナノ構造、鉄鋼材料、歯科金属）や試料作製のノウハウさらには海外の研究事情の紹介が行われます。また20周年を記念した企画として、討論会のこれまでの歩みと今後、さらには電子顕微鏡研究の歩みについて特別講演が催されます。

申込方法：氏名、勤務先、所属、住所、電話番号、Fax 番号、e-mail アドレスをご記入のうえ、下記へお申し込み下さい（e-mail か Fax による）。

申込先（兼連絡先）：

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学化学研究所 根本 隆

TEL: 0774-38-3054 FAX: 0774-38-3055

E-mail: bunseki20@eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp

参加申込締め切り：平成16年8月20日（金）

プログラム（案）：

8月31日（火）

<10:00-12:00>

チュートリアル

1. EDS の基礎 進藤大輔 (東北大)
2. EDS の最新動向 杉山昌章 (新日鐵)
3. EELS の基礎 及川哲夫 (日本電子)
4. EELS の先端研究 木本浩司 (物質・材料研究機構)

<13:30-15:10>

分析技法の最前線

1. 最新 FE-EPMA による高精度 X 線分析
高橋秀之 (日本電子)
2. HAADF による原子レベルでの組成解析
阿部英司 (物質・材料研究機構)
3. 電子線ホログラフィーを用いた先端磁性材料の評価
村上恭和 (東北大)
4. Si 系デバイス絶縁膜の EELS 分析
朝山匡一郎 (ルネサステクノロジ)

<15:25-17:05>

先端材料への新展開

1. ゴムメタルの組織解析 倉本 繁 (豊田中研)
2. 半導体ナノ構造のカソードルミネッセンス
山本直紀 (東工大)
3. 高機能鉄鋼材料のナノ領域解析
山田克美 (JFE スチール)
4. 歯科金属 (EDX/XRF) - 金属アレルギーを中心として -
林 善彦 (長崎大)

9月1日 (水)

<10:00-11:00>

試料作製のノウハウ

1. 金属・セラミックス・半導体の薄膜化
市野瀬英喜 (北大)
2. FIB を用いたソフトマテリアルの試料作製
上野武夫 (日立サイエンスシステムズ)
3. 生物クライオ試料 高屋憲一 (富山医薬大)

<11:00-12:00>

海外の研究事情

1. 海外における分析電子顕微鏡法の動向と展開
渡辺万三志 (Lehigh 大)
2. 諸外国の最新電子顕微鏡プロジェクトについて
田中信夫 (名大)

<13:00-14:00>

「20周年特別企画」

1. 分析電子顕微鏡討論会の20年の歩みと今後の展開
板東義雄 (物質・材料研究機構)
2. 電子顕微鏡のこし方をふりかえって
— Hans Bethe に学んだことなど —
志水隆一 (大阪工大)

<14:00-14:15> 質問回答コーナー

<14:30-17:10> 一般講演

- 3) 分科会問い合わせ先・連絡先
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所

先端ビームナノ科学センター 複合ナノ解析化学

TEL: 0774-38-3050 FAX: 0774-38-3055

<http://eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp/index.ja.html>

3. 高分解能電子顕微鏡分科会 (世話人: 高柳邦夫)

1) 分科会活動方針

電子の短波長化, 波長の均一化, 収差補正レンズによるレンズの低収差化, それに伴う電子ビーム系の縮小, 電子計算機による光学補完により, 電子顕微鏡の高分解能化が一部, 実現されている。「高分解能電子顕微鏡分科会」では, 研究者間の交流を図り, これらの技術・方法を応用することによって開ける可能性について情報交換を行うとともに, 新たな提案, 情報の発信源となることを使命として活動する.

2) 平成16年度活動内容

研究会の開催を予定, 日程・内容等の詳細は未定

3) 分科会問い合わせ先・連絡先

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学理工学研究所 高柳邦夫

TEL: 03-5734-2078 FAX: 03-5734-2079

E-mail: takayang@phys.titech.ac.jp

4. 走査電子顕微鏡分科会 (世話人: 山下美香)

1) 分科会活動方針

SEM に興味を持つ研究者・技術者が抱える問題点, あるいは広く知らしめたい技術&研究成果などを提供しつつ, 活発な議論をおこなう場の提供をめざす. また, この活動を通じて学会の発展と会員数の増加に寄与する.

2) 平成16年度活動内容

技術交流の場として, 下記講演会 (SCANTECH 2004) を開催する. また, 和文誌, 並びに英文誌への投稿を促進する.

○ SCANTECH 2004

“明日のサイエンスを支える SEM 技術

～知っていますか? 試料に応じたいろいろな手法を～”

日 時: 2004年9月3日 (金) 10:00~19:00

場 所: 日本女子大学100年館

参加費 (予稿集代を含む)

事前登録者: 3,500円 (日本顕微鏡学会会員)

4,500円 (一般)

当日登録者: 4,000円 (日本顕微鏡学会会員)

5,000円 (一般)

学 生: 3,000円

プログラム (案):

1. 基礎技術の進歩

1) 試料前処理はどう進化したか? 近藤俊三 (日本電子)

2) 検出器はどう進化したか? 佐藤 貢 (日立ハイテク)

3) 観察手法はどう進化したか? 小倉一道 (日本電子)

4) 画像記憶装置はどう進化したか?

高橋一郎 (帝京大・医)

2. 各種試料の観察 (医・生物系)

1) 微生物観察の基礎 西山彌生 (帝京大・医真菌研)

- 2) 食品のカビ 高橋治男 (千葉県衛生研)
- 3) 口腔内の微生物について 三島弘幸 (高知学園短大)
3. 各種試料の観察 (材料系)
 - 1) 金属材料の新しい視点からの観察技術
杉山昌章 (新日鐵・先端技研)
 - 2) 身近な記録材料 長澤忠広 (コニカミノルタテクノ)
 - 3) 透視 SEM による半導体ナノ構造の観察
永瀬雅夫 (NTT 物性科学基礎研)
4. SEM 像の解釈
 - 1) モンテカルロシミュレーションの使い方
池上 明 (日立ハイテック)
 - 2) SEM 画像のシミュレーション 小野耕平 (富士総研)
5. ミキサー

※ミキサーの場合でも、簡単なプレゼンテーションが可能で
す。奮ってご参加下さい。上記プログラムは暫定のもので
す。演題、演者は変更になる可能性があります。最新情報
は、走査電子顕微鏡分科会のホームページをご覧ください。

URL: <http://homepage1.nifty.com/scantech/>

3) 分科会問い合わせ先・連絡先

世話人：山下美香

(株) コーセー研究本部

基礎研究所 基盤技術研究室 評価研究グループ

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢1 18 4

TEL: 03-3967-6441 FAX: 03-3967-6649

E-mail: mika-y@kose.co.jp

走査電子顕微鏡分科会ホームページ：

<http://homepage1.nifty.com/scantech/>

5. 走査型プローブ顕微鏡分科会 (世話人：森田清三)

1) 分科会活動方針

急速に進歩・発展・多様化しつつある走査型プローブ顕微
鏡 (SPM) に関する研究を顕微鏡学的観点から推進する。
具体的には、新しい SPM の開発と既存 SPM の高度化、有
機・バイオ材料や高分子材料などの特質と構造の微視的評
価、電子材料・デバイスなどの評価への SPM の応用、理論
的検討などを行う。

2) 平成 16 年度活動内容

日本顕微鏡学会 SPM 分科会 H16 年度研究会プログラム

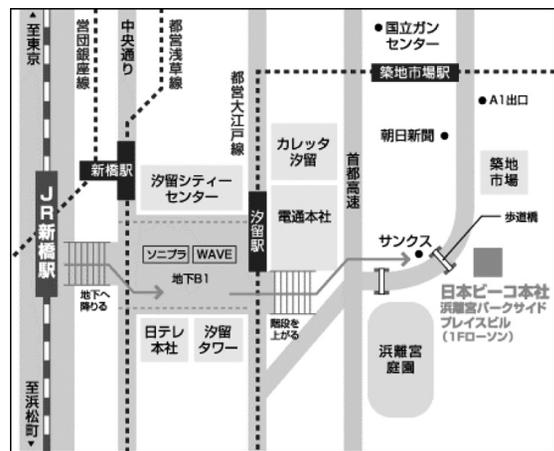
平成 16 年度は、下記のようなプログラムで研究会を開催
します。是非、ご参加下さい。

日 時：平成 16 年 11 月 11 日 (木) 11:00-17:00

場 所：日本ビーコ会議室 (東京都中央区築地 5-6-10
浜離宮パークサイドプレイスビル, TEL: 03-3549-3170, 都
営大江戸線「築地市場駅」A2 出口より徒歩 5 分 (東京駅か
らは JR 浜松町駅下車, 都営大江戸線大門駅への乗換えが便
利です))

参加費：無料、定員：40 人弱 (3 人掛けで詰めれば 48 名)

1. 11:00-11:30 藤田大介：極限物理環境における高
分解能 STM 計測技術
2. 11:30-12:00 牛木辰男：SPM の生物応用



3. 12:00-12:30 菅原康弘：LT-AFM による Si 表面基底
状態超構造の決定と溶液中 AFM の高感度化技術の開発
昼食 12:30-14:00
4. 14:00-14:30 塚田 捷：汎用 SPM シミュレータの開
発に向けて (招待講演)
5. 14:30-15:00 山田啓文：NC-AFM による分子材料の
構造・物性計測の現状
6. 15:00-15:30 大西 洋：二酸化チタン表面光化学反
応のプローブ顕微鏡観察
7. 15:50-16:20 富取正彦：SPM 探針への電圧印加によ
る諸現象の探索と応用
8. 16:20-16:50 森田清三：NC-AFM の力学的原子識
別・操作・組立への応用
- 懇親会 17:00-19:00 浜離宮パークサイドプレイスビル
内予定 (実費：5000 円～3,000 円)
参加申し込み先：(E-mail で氏名・所属・懇親会参加 or 不参
加明記でお申し込み下さい。)
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1
大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻 森田清三
TEL: 06-6879-7761 FAX: 06-6879-7764
E-mail: smorita@ele.eng.osaka-u.ac.jp
- 3) 分科会問い合わせ先・連絡先
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1
大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻 森田清三
TEL: 06-6879-7761 FAX: 06-6879-7764
E-mail smorita@ele.eng.osaka-u.ac.jp
6. 生体構造解析分科会 (世話人：光岡 薫)
 - 1) 分科会活動方針
本会は、顕微鏡画像を用いた生体構造解析研究の支援を行
う。画像解析は専門的な知識が必要であり、生体試料調製は
個々のノウハウが重要で最適な条件の検索に時間がかかる。
そこで、分野内外の研究者の交流を促進することにより、研
究の迅速かつ相補的な発展を目指す。
 - 2) 平成 16 年度活動内容
昨年度は 11 月 6, 7 日の一泊で SPring-8 普及棟および理
化学研究所・播磨研究所において、研究討論会を開催した。

また、第48回シンポジウムで「電子顕微鏡による膜蛋白質の高分解能構造解析」というセッションを開催した。これをふまえて、今年度は分野外の研究者との交流を目的として昨年同様11月頃にテーマを決めて研究交流会を開催する。場所は、昨年度は関西地区だったので、今年度は関東地区（東京）で行うよう計画中。具体的な開催予定日時、内容等は現在検討中なので、詳細が決まり次第、ホームページや会報で連絡する。もし、取り上げて欲しいテーマがありましたら、下記問い合わせ先へ連絡を下さい。

3) 分科会問い合わせ先・連絡先

〒135-0064 東京都江東区青海2-41-6

産業技術総合研究所生物情報解析研究センター 光岡 薫

TEL: 03-3599-8264 FAX: 03-3599-8099

E-mail: kaorum@jbirc.aist.go.jp

ホームページのURL: <http://em.biophys.kyoto-u.ac.jp/jsem/>

7. デバイス解析分科会（世話人：桑野範之・平坂雅男）

1) 分科会活動方針

本分科会では光・半導体を始めとするデバイスの特性向上や品質管理のための解析技術の研究を行っている。特に、デバイス材料に関する具体的なテーマに対して、企業、大学、電子顕微鏡メーカーが情報と技術を交換し、互いにニーズとシーズを出し合いながら電子顕微鏡技術を発展させていくことを目的としている。

2) 平成16年度活動内容

(1) 電子顕微鏡解析技術フォーラム

「電子顕微鏡によるプロセス不良解析・故障解析」や「材料開発における電子顕微鏡解析の問題点」などについて参加者の発表を中心に討議致します。

日時：2004年8月27日（金）～8月28日（土）

（1泊2日）

内容：『3次元構造解析へのアプローチ』

問い合わせ先：平坂雅男（帝人）

E-mail: m.hirasaka@teijin.co.jp

(2) デバイス解析分科会研究会

科学研究費補助金・基盤研究C(1)企画「電子プローブによる光・電子デバイス材料および実装素子のナノ組織解析技術の進展」の成果を基にした研究・報告会を予定しています。

日時：2005年1月頃

問い合わせ先：桑野範之（九大）

E-mail: kuwano@astec.kyushu-u.ac.jp

3) 分科会問い合わせ先・連絡先

世話人（責任者）氏名 桑野範之

九州大学 先端科学技術共同研究センター

〒816-6580 春日市春日公園6-1

TEL: 092-583-8773 FAX: 092-573-8729

E-mail: kuwa-igz@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

世話人（責任者）氏名 平坂雅男

帝人株式会社 新事業開発グループ 研究企画推進部

〒100-8585 千代田区内幸町2-1-1

TEL: 03-3506-4104 FAX: 03-3506-4127

E-mail: m.hirasaka@teijin.co.jp

◇平成16年度研究部会活動方針・活動内容

1. アクティブナノ顕微鏡研究部会（世話人：藤田大介）

1) 研究部会活動方針

各種ナノ顕微鏡とアクティブ操作を融合させる技術、すなわちアクティブナノ顕微鏡をテーマとして活動を行う。アクティブナノ顕微鏡とは、極低温場、強磁場、極高真空場、高温場、応力場、電場、分子線照射場、粒子線照射場など様々なアクティブ操作を印加した状態において高度な多機能ナノ計測を行う新しい顕微鏡手法である。

2) 平成16年度活動内容

第3回研究会

—アクティブナノ顕微鏡最近の展開—

日本顕微鏡学会は、電子顕微鏡法以外にも、トンネル顕微鏡、原子間力顕微鏡、非接触原子間力顕微鏡、近接場光顕微鏡など多様なナノ顕微鏡へもウィングを拡げており、本研究部会では、このような各種ナノ顕微鏡とアクティブ操作を融合させる技術、すなわちアクティブナノ顕微鏡をテーマとして活動を行います。アクティブナノ顕微鏡とは、極低温場、強磁場、極高真空場、高温場、応力場、電場、分子線照射場、粒子線照射場など様々なアクティブ操作を印加した状態において高度な多機能ナノ計測を行う新しい顕微鏡手法です。平成16年度は、下記のようなプログラム（案）で研究会を開催します。是非、ご参加下さい。

日時：平成16年12月10日（金）13:00-17:00

場所：物質・材料研究機構目黒地区材料データベース棟102号室（東京都目黒区中目黒2-2-54, JR山手線「恵比寿駅」もしくは地下鉄日比谷線「中目黒駅」下車。徒歩10分。目黒清掃工場向い。）

参加費：無料、定員：70人

プログラム（案）

1. 13:00-13:05 はじめに



2. 13:05-13:40 平山 司 (ファインセラミックスセンター)

電子線ホログラフィーによる半導体内微量ドーパント分析解析の信頼性

3. 13:40-14:15 田中信夫 (名古屋大学)

電子レンズアクティブオペレーション技術開発の現状

4. 14:15-14:50 幾原雄一 (東京大学)

材料破壊過程の高分解能その場観察

14:50-15:10 休憩

5. 15:10-15:45 藤田大介 (物材機構)

走査トンネル顕微鏡アクティブナノ計測の最近の展開—極限物理環境と応力場環境—

6. 15:45-16:20 森田清三 (大阪大学)

原子間力顕微鏡による半導体原子の力学的原子操作

7. 16:20-16:55 斎木敏治

慶応大学 近接場光学顕微鏡によるナノ分光法の最近の進展

8. 17:00-19:00 懇親会

参加申し込み先: (E-mail で氏名・所属・懇親会参加 or 不参加明記でお申し込み下さい.)

〒305-0047 つくば市千現 1-2-1

物質・材料研究機構 ナノマテリアル研究所

藤田大介

TEL: 029-859-2741 FAX: 029-859-2501

E-mail: FUJITA.Daiduke@nims.go.jp

http://www.nims.go.jp/activenano/Microscopy_Society/

3) 研究部会問い合わせ先・連絡先

〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-2-1

物質・材料研究機構 ナノマテリアル研究所

ナノデバイスグループ 藤田大介

TEL: 029-859-2741 FAX: 029-859-2501

E-mail: fujita.daisuke@nims.go.jp

2. SPM で生命現象を捉える手法の開発研究部会

(世話人: 荒川秀雄)

1) 活動方針

本研究部会では、試料調製法や観察法、測定法、異なる走査型プローブ顕微鏡法 (SPM) あるいは SPM 以外の手法との組み合わせ、従来の SPM の限界を超える装置開発などの新技法の開発研究を通じて学問領域と技術体系を進展させることを目的として活動を行う。

2) 平成 16 年度活動内容

平成 16 年 12 月 5 日, 6 日 (日時は変更の可能性あり, 場所未定) に研究会を開催して, 諸分野の研究者間の交流から新手法の開発を促進する。

プログラムの詳細は未定であるが, 幅広い分野から手法開発の情報を集めた講演会と, 実際の研究に密着した議論を戦わす討論会を予定している。

3) 問い合わせ先・連絡先

荒川秀雄 (物質・材料研究機構ナノマテリアル研究所)

〒305-0044 茨城県つくば市並木 1-1

FAX: 029-860-4828

E-mail: ARAKAWA.Hideo@nims.go.jp

3. 微生物の構造・機能の顕微科学的解析研究部会

(世話人: 山田作夫)

1) 研究部会活動方針

本研究部会では, ウイルス, 細菌, 真菌, 原虫などの微生物を対象として, 従来の技術や観察法に基づきながらも新しい電顕技法, および近年展開されている新たな顕微鏡を利用した解析法を取り入れ, 微生物の構造・機能の解明を試みる。

2) 平成 16 年度活動内容

第 36 回日本臨床電子顕微鏡学会においてシンポジウム「抗微生物薬の作用機序の顕微科学的解析」を次のように開催する運びとなっている。

開催日: 平成 16 年 11 月 5 日 (金)

会場: 熊本市ニュースカイホテル

主催: 第 36 回日本臨床電子顕微鏡学会

内容: 化学療法薬の病原微生物に対する作用メカニズムについて, とくに細胞レベルでの超微形態学解析によって, 現在まで抗微生物作用について何が明らかになってきたかを紹介した上で, 最近のトピックスを踏まえて新しい抗微生物薬の研究開発や展望について公表かつ討議する予定である。

3) 研究部会問い合わせ先・連絡先

〒701-0192 倉敷市松島 577

川崎医科大学微生物学教室 山田作夫

TEL: 086-462-1111 FAX: 086-462-1199

4. ビーム誘起・励起効果研究部会 (世話人: 松村 晶)

1) 研究部会活動方針

本研究部会では, 様々な観点や応用の立場から行われているエネルギービーム励起効果に関する研究を集め, それらの機構や現象についての理解を進展させるとともに, それに資する顕微鏡学的解析手法の可能性や展望についての議論を行う。この目的を達成するために, 研究会を開催するとともに研究者間の交流ネットワークの構築を進める。

2) 平成 16 年度活動内容

諸分野の研究者間で最新の研究成果について検討を行う研究部会の開催

予定時期: 2005 年 1 月頃

3) 研究部会問い合わせ先・連絡先

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学大学院工学研究院エネルギー量子工学部門

松村 晶

TEL & FAX: 092-642-3772

E-mail: syo@nucl.kyushu-u.ac.jp

5. 記録系と画像処理研究部会 (世話人: 市野瀬英喜)

1) 研究部会活動方針

ナノテクノロジー、バイオテクノロジーにおいて電子顕微鏡などの計測技術が大きな役割を担っており、電子顕微鏡自身、基盤技術の進展日々向上しなければならない。とりわけ、電子検出器の性能向上が顕微鏡重要である。ユーザー、計測手法の研究、開発者が検出器に求められる課題を共有することによって、当該分野の基盤技術を伸長させる必要がある。

2) 平成 16 年度活動内容

- (1) ナノ材料、デバイス分野、バイオロジー、医学分野の技術ロードマップ作製
- (2) 電顕のロードマップ作製 ((1) のロードマップから見てどういった観察が求められるか?)
- (3) 検出器の技術ロードマップ作製 (過去から未来まで、(2) のロードマップに対して必要な検出器はどういったも

のか。またどういった解があり、技術的に克服すべき課題は何か。)

(4) 検出器の周辺技術ロードマップ作製 ((3) を可能にする周辺技術の進歩予測, CCD, CMOS センサ, シンチレータ, ダイオード材料, 回路技術など)

3) 研究部会問い合わせ先・連絡先

筆頭幹事：長我部信行（日立製作所基礎研究所）

E-mail: osakabe@rd.hitachi.co.jp

世話人：市野瀬英喜（北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センター）

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目

TEL & FAX: 011-706-7580

E-mail: ichinose@ufml.caret.hokudai.ac.jp

電顕試料作製・観察実技および光顕技法講習会のご案内

主催：日本顕微鏡学会関東支部

日本顕微鏡学会関東支部では、電子顕微鏡を扱う初等ないし中等の研究者及び技術者の技術向上を目的とし、数名のグループ単位で実技の指導を行なっています。一連の実習と講師とのディスカッションが能率良く計画されており、それぞれのコースを修了すれば、試料作製が一通り出来るようになることを、目指しています。今回は医学生物系 12 コース、物質材料系を 3 コース開講致します。ふるってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

【申し込み方法】

添付の申し込み用紙に記入して、E-mail、郵送、またはファックスでお送りください（希望科目一科目につき一枚）。なお、申し込み用紙は日本顕微鏡学会 web サイト (http://www.bcasj.or.jp/jsm/kanto_shibu.html) からダウンロードできます。受講の可否はグループの講習開始より 3 週間前までに致します。講習費は受講に関する通知が届き次第お送りください。（期間が過ぎている場合はご相談下さい）

【申し込み先、締切り】

〒 980-8577 仙台市青葉区片平二丁目 1 番 1 号

東北大学多元物質科学研究所

進藤大輔

E-mail: shindo@tagen.tohoku.ac.jp

TEL: 022-217-5170

FAX: 022-217-5211

※先着順で受付、各グループとも定員になり次第締め切ります。

【学生 & 非会員の費用】

受講者が学生の場合は下記の費用から一律 1 万円割引です。非会員の場合は一律 1 万円増です。受講日までにご入会の場合、会員扱いとなります。

入会申込み先：日本顕微鏡学会

学会事務センター会員業務

TEL: 03-5814-5810, 03-5814-5825

【ご注意】

1. 受講申込みの際、科目 (1, 2 …) とグループ番号 (a, b, …) を明記してください。申込み後、1 週間以内に受理通知が無い場合には電話でお問い合わせください。
2. 講師の事情により、講習日程等を変更させていただくことがあります。最新の情報は日本顕微鏡学会 web サイト (http://www.bcasj.or.jp/jsm/kanto_shibu.html) でご確認ください。
3. 納入された講習費は返却致しません。やむをえない場合の代理人の受講は可能です。

講習科目・費用・期間・地区・講師・募集人員

医学生物系

1. 生物試料超薄切片法 (医・生物)

4 日間コース 費用 60,000 円

5 日間コース 費用 70,000 円

(a) 宮城

- 近藤尚武 (東北大院・医・細胞組織)

12 月 13 日 (月) ~ 17 日 (金) 5 日間

2 名

(b) 東京

- 佐々木崇寿 (昭和大・歯・口腔組織)

平成 16 年 9 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日の内 4 日間 (調整可)

3 名 (講習科目 5 と併せて)

* 1-2 名ずつの受講者の単位で講習会を行う。

* 軟組織と硬組織の超薄切片法。

* 希望者には「免疫電顕法」講習も可能。

(c) 神奈川

- 山科正平 (北里大・医・解剖)

12 月 13 日 (月) ~ 17 日 (金) 5 日間

5 名

* 希望があれば免疫電顕についても講習する。

(d) 東京

- 佐々木博之 (慈恵医大・DNA 医学研)

12 月 1 日 ~ 31 日の内 5 日間 (調整可)

4 名

* 希望者には「免疫電顕法」講習も可能。

【講習内容 (a) ~ (d) 共通】

- 1) 固定 (アルデヒド・オスミウム二重固定)
- 2) 脱水
- 3) 包埋 (Epon 包埋)

- 4) 薄切 (ガラスナイフとポートの作製, トリミング, 光頭切片と薄切)
- 5) 載物 (メッシュ処理)
- 6) 電子染色 (ウラン・鉛二重染色法, カーボン蒸着補強法)
- 7) 電顕観察 (各受講者が作製した切片の観察, 撮影と焼き付け)
- 8) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答)

2. 走査電子顕微鏡試料作製法 (医・生物)

3日間コース 費用 50,000円

(a) 東京

●高橋一郎 (帝京大・医・中央電顕)

12月13日 (月) ~ 15日 (水)

5名

* 免疫SEM法・高精細デジタル画像処理法を含む。

【講習内容】

- 1) 固定 (臓器の断面観察試料, 粘膜面観察試料, 遊離浮遊細胞試料)
- 2) 脱水
- 3) 断面試料 (アルコール凍結切断, カミソリ切断)
- 4) 乾燥 (臨界点乾燥法凍結乾燥法)
- 5) 載物 (試料台への接着固定)
- 6) 導電処理 (真空蒸着法, イオンスパッタ法)
- 7) SEM観察 (アウターレンズ&インナーレンズFE-SEMによる観察)
- 8) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答, 特殊な観察の紹介)

(b) 東京

●幡場良明 (慈恵医大・DNA医研・分子細胞生物)

12月6日 (月) ~ 8日 (水)

3~4名

* 血管灌流固定法と凍結切断法を主体にする。

【講習内容】

- 1) 固定 (臓器の断面観察試料, 粘膜面観察試料, 遊離浮遊細胞試料)
- 2) 脱水
- 3) 断面試料 (DMSO凍結切断法, アルコール凍結切断法, カミソリ切断法)
- 4) 乾燥 (臨界点乾燥法, 凍結乾燥法)
- 5) 載物 (試料台への接着固定)
- 6) 導電処理 (イオンスパッタ法)
- 7) SEM観察 (各受講者が作製した試料の観察, 撮影)
- 8) 総括と補講 (各受講者の成果について批評と質疑応答, 特殊な観察の紹介)

(c) 東京

●今市涼子 (日本女子大学・理)

12月1日 (水) ~ 3日 (金)

4~5名

* 微生物 (微小試料含む) および植物のSEM観察のための基本的な試料作製法。

* レプリカSEM法を含む。

【講習内容】

- 1) 固定
- 2) 脱水
- 3) 断面試料 (アルコール凍結切断, カミソリ切断)
- 4) 乾燥 (臨界点乾燥法凍結乾燥法)
- 5) 載物 (試料台への接着固定)
- 6) 導電処理 (真空蒸着法, イオンスパッタ法)
- 7) SEM観察 (各受講者が作製した試料の観察, 撮影と焼き付け)
- 8) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答, 特殊な観察の紹介)

3. フリーズレプリカ法 (医・生物)

3日間コース 費用 50,000円

(a) 山形

●鷲岳 宏 (山形大・医・解剖)

12月8日 (水) ~ 10日 (金)

3名

* 通常の方法に加え双面レプリカ法・有機溶媒を用いたディープエッチング法も可能

* 試料作製用具を準備可能

【講習内容】

- 1) 固定 (固定の仕方と凍結保護の条件)
- 2) 凍結 (凍結の方法)
- 3) 切断 (温度の設定, 切断の方法, エッチング)
- 4) シェドウイング・レプリカ膜の作製 (カーボン補強, レプリカ膜の剥離)
- 5) 観察 (アーティファクトについて)
- 6) 総括 (質疑応答)

(b) 山梨

●大野伸一 (山梨大院・医工・解剖)

11月24日 (水) ~ 26日 (金)

3名

* ディープエッチング法及び生体内凍結技法を含む。

【講習内容】

* 本講習は切片作製法の経験者が対象。

- 1) 固定 (固定の仕方と凍結保護の条件)
- 2) 凍結 (凍結の方法)
- 3) 切断 (温度の設定, 切断の方法, エッチング)
- 4) シェドウイング・レプリカ膜の作製 (カーボン補強, レプリカ膜の剥離)
- 5) 観察 (アーティファクトについて)
- 6) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答)

4. 細胞培養と顕微鏡観察の基礎 (医・生物)

3日間コース 費用 30,000円

(a) 埼玉

● 穂田真澄 (埼玉医大・中央研・形態)

10～12月 (調整可)

2～3名

* 培養細胞の顕微鏡観察法を主とします。

【講習内容】

- 1) 細胞培養法の基礎
- 2) 免疫染色と蛍光顕微鏡観察法
- 3) 共焦点レーザー顕微鏡観察法
- 4) 総括と補講 (受講者の成果についての批評と質疑応答)

5. 顕微鏡免疫組織細胞化学 (医・生物)

3日間コース 費用 50,000円

4日間コース 費用 60,000円

(a) 東京

● 川上速人 (杏林大・医・解剖)

平成17年1月18日(火)～20日(木) 3日間

2～3名

* 抗体およびレクチンを用いた顕微鏡免疫組織細胞化学。

(b) 東京

● 佐々木崇寿 (昭和大・歯・口腔組織)

平成16年9月1日～平成17年3月31日の内4日間 (調整可)

3名 (講習科目1と併せて)

* 講習は1名ずつ行う。

【講習内容 (a), (b) 共通】

- 1) 免疫組織細胞化学のための試料作製法
- 2) 標識抗体の作製・適用の原理と実際 (主に講義・デモ)
- 3) 包埋前及び包埋後染色法適用の原理と実際 (一部講義)
- 4) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答)

6. ラットの血管鋳型作製法 (医・生物)

2日間コース 費用 40,000円

(a) 神奈川

● 岸 好彰 (神奈川歯科大・人体構造学)

10月～12月の内2日間 (調整可能)

4名 (1回2名ずつ)

* 希望の動物・臓器・組織でも構わない。

* 走査電顕での観察を主とする。

【講習内容】

- 1) 小動物血管鋳型標本の作製 (血管注入法, 組織腐食法, 試料細切, 固定, 凍結乾燥, 蒸着)
- 2) SEM 観察
- 3) 総括 (血管鋳型の作製に重点をおいた講習)

7. 微細藻類の電顕試料作製法 (医・生物)

4日間コース 費用 60,000円

(a) 神奈川

● 長船哲齊 (日体大・生命科学)

12月1日(水)～4日(土)

2名

【講習内容】

- 1) 固定 (アルデヒド・オスミウム二重固定)
- 2) 脱水
- 3) 包埋
- 4) 薄切 (ガラスナイフとポートの製作, トリミング, 顕微鏡切片と薄切)
- 5) 載物 (メッシュ処理)
- 6) 電子染色
- 7) 電顕観察
- 8) 総括と補講 (各受講者の成果についての批評と質疑応答)

8. 血液細胞の試料作製法と観察法 (医・生物)

4日間コース 費用 60,000円

5日間コース 費用 70,000円

(a) 東京

● 鈴木英紀 (東京都臨床研・電顕室)

12月6日(月)～12月10日(金) 5日間 (調整可)

2名

* 希望者には「免疫電顕法 (包埋前, 包埋後, 凍結超薄切片法)」講習も可。

* 本講習は原則として超薄切片法経験者が対象。

【講習内容】

- 1) ヒト血液細胞 (赤血球, 白血球, 血小板) の分離法
- 2) 血液細胞の透過電顕試料作製法および観察法
- 3) 血液細胞の走査電顕試料作製法および観察法
- 4) 総括と補講 (受講者の成果についての批評と質疑応答)

9. 細胞培養と電顕観察の基礎 (医・生物)

4日間コース 費用 40,000円

(a) 埼玉

● 穂田真澄 (埼玉医大・中央研・形態)

10～12月 (調整可)

2～3名

* 走査電顕か透過電顕の片方だけでも可能。

* 希望者には暗室技術も講習可能。

【講習内容】

- 1) 細胞培養法の基礎
- 2) 走査電顕試料作製法および観察法
- 3) 透過電顕試料作製法および観察法

10. 分析電子顕微鏡の基礎と応用（医・生物）

3日間コース 費用 50,000円

(a) 東京

●大門建夫（帝京大・医・解剖）

12月（調整可）

若干名

【講習内容】

- 1) 元素分析の原理
- 2) 元素分析用の生物試料の作製法
- 3) 分析電顕の観察と元素分析
- 4) 総括と補講（各受講者の成果についての批評と質疑応答）

11. クリオスタット切片の作製とレーザーマイクロダイセクションによる遺伝子解析の基礎（医・生物）

4日間コース 費用 40,000円

(a) 埼玉

●穂田真澄（埼玉医大・中央研・形態）

10～12月（調整可）

2～3名

【講習内容】

- 1) クリオスタット切片の作製法
- 2) レーザーマイクロダイセクション法
- 3) PCRと電気泳動による遺伝子解析の基礎
- 4) 総括と補講（受講者の成果についての批評と質疑応答）

12. 共焦点顕微鏡の使い方（医・生物）

3日間コース 費用 50,000円

(a) 群馬

●村上 徹, 依藤 宏（群馬大院・医・器官機能構築学）

2004年9月14日（火）～16（木）

3名

* 試料持参可

* 希望する内容について申し込み前にご相談ください

* 推奨テキスト：高田編「共焦点顕微鏡活用プロトコール」羊土社

【講習内容】

- 1) 試料作成（全載標本、培養細胞、凍結切片）
- 2) 観察（機器の操作、記録）
- 3) 画像処理（画像データの取り扱い）
- 4) 総括と補講（各自の成果についての評価と質疑応答）

物質材料系

1. 断面高分解能観察用試料の作製と観察（材料）

3日間コース 費用 50,000円

(a) 札幌

●市野瀬英喜（北大, エネマテセンター）

平成16年12月6日（月）～8日（水）

3～4名

【講習内容】

- 1) 前処理（背面接合とダミーの接着, 試料の裁断, 試料の補強）
- 2) 機械研磨（平研磨, ディブリング）
- 3) 最終研磨（イオン研磨）
- 4) 断面高分解能 TEM 観察
- 5) 総括と補講（各受講者の成果についての批評と質疑応答）

2. 高分解能電子顕微鏡観察法（セラミックス）

3日間コース 費用 50,000円

(a) つくば

●松井良夫（物質・材料研究機構, 物質研究所）

平成16年11月29日（火）～12月1日（木）

2名

【講習内容】

- 1) 高分解能像の種類とその応用（講義）
- 2) 試料作製法（装置見学）
- 3) 電子顕微鏡技術実習（軸調整, 非点収差補正, フォーカシング）
- 4) 高分解能像観察実習
- 5) 観察像の選別, 解釈
- 6) 計算機シミュレーションと画像処理
- 7) 総括と補講（各受講者の成果についての批評と質疑応答）

3. 高分子材料の電子顕微鏡試料作製法（共通）

3日間コース 費用 50,000円

(a) 群馬

●甲本忠史（群馬大, 工）

平成16年11月17日（水）～19日（金）

4名

【講習内容】

- 1) カーボンレプリカ法による TEM 観察（プラズマエッチング, 過マンガン酸エッチングによる前処理を含む）
- 2) 超薄切片法による TEM 観察（四酸化ルテニウムの調製と電子染色法を含む）
- 3) TEM 試料の顕微 FTIR 測定による高分子材料の分析
- 4) 総括と補講（各受講者の成果についての批評と質疑応答）

申込日： 月 日()

第31回(2004年度)電顕試料作製・観察実技および光顕技法講習会申込書

ふりがな 氏名(年齢)		
会員番号		学生の方は○印を記入のこと(※3)
専門分野		
勤務先・所属		
連絡先	住所〒	
	TEL:	FAX:
	e-mail:	
受講希望科目(※1)		
希望グループ番号	第1希望:	第2希望:
経験の程度(※2)		
受講についての 希望・質問など		
今後取り扱う試料		

(※1)申込書は1科目につき1枚お使いください。必要ならコピーしてお使いください。

(※2)どの程度の経験があるか簡単にお書きください。他の講習会の受講経験がある場合は、それもお書きください。

(※3)学生の方は申込書と併せて学生証のコピーを添付するか、下記にご記入ください。

上記の者は

_____大学_____学部_____学科_____年の学生であることを証明します。

_____大学大学院_____学研究科_____学専攻_____年
の学生であることを証明します。

指導教官署名

Journal of Electron Microscopy (JEM) レポート

JEM 編集委員長
市野瀬英喜

会員の皆様や一般の読者に親しまれてきた JEM の装丁が変わるかもしれません。JEM の現在の表紙は新生 JEM への発足時に、当時の田中通義委員長の下で慎重な議論を経て決定され「美しい表紙」として好評でしたが、新競争時代に勝ち抜くための方策の一環として見直すこととなり、金沢における編集委員会で、第一回目の変身に踏み出すこととなりました。審美的要素はかなり犠牲になりますが、毎号新たな写真を投稿論文の中から選択し、表紙に掲載する予定です。「選択の強化」が進む論文誌生き残り競争の中で、論文収集力強化、査読基準のグローバル化、編集スタッフの国際的登用、査読の全世界的依頼、電子ジャーナルへの移行、引用率の向上、掲載拒否率の向上(論文の質の向上)、学会への財政負担の軽減など、JEM が解決に取り組んできた課題はいろいろありますが、今回の措置は論文投稿意欲の向上に繋がり、論文収集力強化に寄与することを期待しています。OUP との交渉で費用の問題が解決すれば、財政負担増への懸念も消えますので、交渉の結果を待って実施に踏み切ることにしようかと存じます。

学会の財政状況を考えますと、毎年の科研費補助は誠に有り難く干天の慈雨であります。今年度もおかげさまで科研費からの補助をいただけることとなりました。この恩恵に報いるためにも、JEM としても学会への財政負担軽減の更なる自助努力を傾ける必要があると考えております。そのために、電子化をさらに進め、近い将来には印刷版の配布は希望者のみに限ることを考えておりますので、次号の「顕微鏡」で、会員諸兄に「印刷板要不要のアンケート」をお願いすることを予定しております。その節は宜しくご回答くださいますようお願いいたします。

前号の「顕微鏡」でご存じのように、米アリゾナ州立大学の J.M.Cowly 教授がお亡くなりになりました。JEM は国際的に電子顕微鏡分野を代表すべき論文誌として、Cowly 教授の電子顕微鏡における偉大な業績に敬意を表して、追悼号を刊行することを決め準備に取りかかりました。

毎回申し上げますように、各国の英文誌が激しい投稿者獲得競争を繰り広げる中で、JEM が徐々にではあっても確実に国際舞台で勢力を伸ばしているのは、日本顕微鏡学会の研究水準の高さの故である事は間違いありません。幸い昨今海外だけでなく国内からの投稿も漸増しております。会員皆様の一層のご尽力をお願いいたします。この傾向をきっかけとして会員の皆様の積極的なご投稿をお願いいたします。

以上